
農地・土壌侵食防止対策 手法ガイドブック 4

- 女性グループの形成手法 -



独立行政法人 緑資源機構



J-Green

目 次

第1章 はじめに

- 1.1 農村開発への女性参加の重要性
- 1.2 本ガイドブックの各段階と内容
- 1.3 活動の実施スケジュール

第2章 第1段階：女性グループの設立

- 2.1 必要不可欠な活動
- 2.2 動機付けのための活動
- 2.3 女性グループの設立

第3章 第2段階：集中的研修の実施

- 3.1 WS 1：女性の自己評価
- 3.2 WS 2：集落の自然資源の現状
- 3.3 WS 3：女性と男性によるそれぞれの活動評価
- 3.4 WS 4：集落の自然資源に関する地図の作成
- 3.5 WS 5：植生から受ける便益
- 3.6 WS 6：植林とその問題点
- 3.7 WS 7：土壌保全
- 3.8 WS 8：集落内の家畜の現状とその問題点

第4章 第3段階：女性グループの強化

- 4.1 WS 1：女性グループの目的の決定
- 4.2 WS 2：グループの評価
- 4.3 WS 3：グループの内部規約の作成
- 4.4 WS 4：女性のリーダーシップの強化
- 4.5 WS 5：女性の自発性と創造力の強化
- 4.6 WS 6：生産およびグループ強化に関する活動
- 4.7 WS 7：役員の役割強化
- 4.8 WS 8：先進地見学

第5章 結論

図表リスト

図

- 図 1 農村開発を実施する際の全体の枠組み
- 図 2 女性グループの組織化に関する段階
- 図 3 必要不可欠な活動
- 図 4 第1段階の活動について
- 図 5 女性グループ設立のための活動
- 図 6 第2段階の活動について
- 図 7 第3段階の活動について

表

- 表 1 活動の実施スケジュール
- 表 2 第1段階活動2の内容
- 表 3 女性の現況把握のための活動内容
- 表 4 組織の重要性に関する活動内容
- 表 5 女性参加の重要性に関する活動内容
- 表 6 役員の役割に関する活動内容
- 表 7 女性の自己評価に関する活動内容
- 表 8 集落の自然資源の現状に関する活動内容
- 表 9 女性と男性による活動評価のための内容
- 表 10 自然資源の地図作製に関する活動内容
- 表 11 植生から受ける便益に関する活動内容
- 表 12 植林とその問題点に関する活動内容
- 表 13 土壌保全に関する活動内容
- 表 14 集落内の家畜の現状とその問題点に関する活動内容
- 表 15 女性グループの目的決定に関する活動内容
- 表 16 女性のリーダーシップ強化に関する活動内容
- 表 17 女性の自発性と想像力強化に関する活動内容
- 表 18 生産活動とグループ強化に関する活動内容

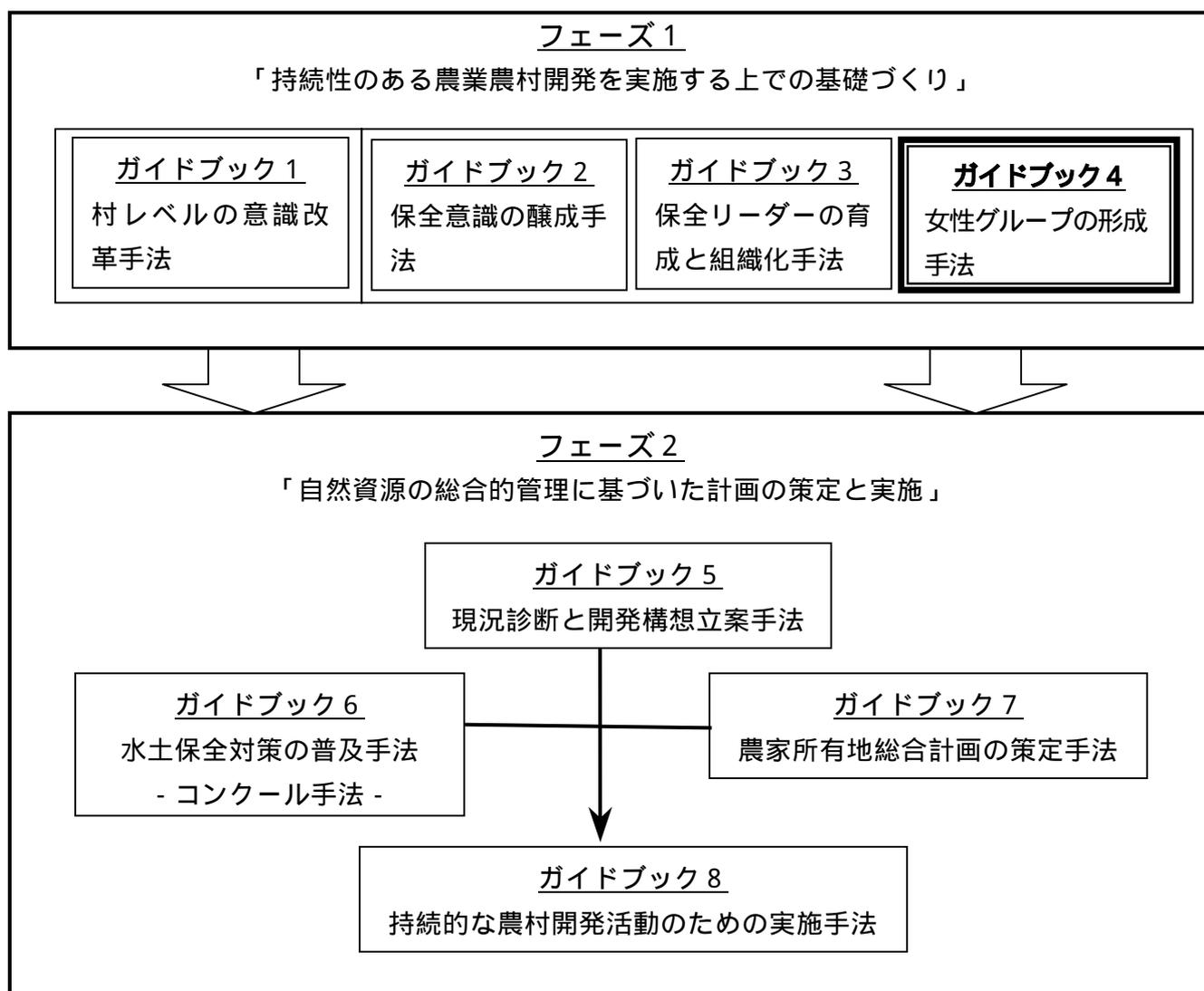
第1章

はじめに

ガイドブック4「女性グループの形成手法」は「水土保全に基づいた持続的農村開発」の実施戦略に基づき行われた事例について記載している。実施戦略はふたつのフェーズから構成され、第1フェーズは「持続的農業農村開発を実施する上での基礎作り」についてであり、第2フェーズは「自然資源の総合的管理に基づいた計画の策定と実施」である。本ガイドブックは、前者に該当する部分について記述している。

実施戦略に基づいて作成したガイドブックの概要については、「総合ガイドブック」と図1を参照のこと。

図1 農村開発を実施する際の全体の枠組み



1.1 農村開発への女性参加の重要性

40年ほど前から、カトリック系の団体やNGOなどの組織は母親クラブ、母親センター、女性組織などを通じて、女性が活発に参加することを推進してきた。だが、これらの多くは、組織がなくなると同時に活動を終了した。

現在、多くの開発機関は、農村開発において女性の参加が極めて重要であることを認めているが、その開発過程に貢献できるような女性の参加は残念ながら得られていない。その原因のひとつは、ほとんどの開発機関の活動内容が男性向けであり、女性を対象とした活動があまり多くなかったからと思われる。

実証調査が提案した実施戦略では、農村開発事業の実施過程に可能な限りの集落住民が参加することによって初めて効果が上がるとしており、その中には女性の参加も例外ではない。これは次のような理由に基づいている。

a) 女性と自然資源との直接的な関係

集落に住む女性は、一般的、日常的に薪の収集や家畜の世話などの役目を持っていることから、女性は自然資源の管理と保全に大きく貢献できる可能性があるなど関係が深い。

それにも関わらず、女性は開発過程から対象外とされ、また女性の自己評価を低くし、自らを卑下することさえある。例えば、集落の農家組合の総会において、女性が積極的に参加し、意見を述べ、何らかの役を引き受けることはほとんど見られない。総会に参加する女性は通常、夫の代理か、または夫を亡くした者だけである。この場合、この女性は出席を取る際に返事をするだけで、意見も提案も述べることなく問題の解決策を探すことに協力できない。よって、この時点では自然資源管理および集落の発展に対して女性は何の貢献もしていない。

本ガイドブックのひとつの目的は、ほとんどの女性は「自然資源管理と保全のテーマは自分の要望や必要性和かけ離れている」と思っている、女性は興味を持たない、自己改善するための動機を持たない、という状況の中で、集落レベルの意思決定および自然資源の管理と保全活動において女性の積極的な参加を促すことである。



b) 女性の集落や農家組合における位置づけ

近年、貧困の度合いが高まっているため、多くの男性は出稼ぎに行かざるを得なくなっている。この結果、集落には老人、子供の他、多く女性が残され、家庭の責任のほか、農家組合に関する責任も背負わなければならない。だが、農家組合に関する責任は通常、男性の役目であるため、女性は集落の意思決定の際にどう行動すればよいかよく分からず対応できない。女性にとって、突然背負うことになった農家組合に関する責任や任務を果たすことは非常に困難である。こうして、集落の問題に対する女性の消極的な姿勢が高まっていく。

実証調査では次の事例が見られた。

実証調査の事例.....

シリチャカ集落において活動を始めた頃、集落では、農家組合の役員長を含み、出稼ぎのため役員が長い期間集落を不在にすることが普通であった。つまり、役員に選ばれたにも関わらず、個人の農作業（種まき・収穫）を終えれば、出稼ぎに出て、その間の役員としての責任はすべてその妻が背負うことが普通であった。



だが、これらの女性が背負う役割や責任は名義上だけであり、実際は組合の他の役員が負っていた。例えば、不在の役員長の妻の役割といえば、全員に総会を開くことを知らせることと、集会所のカギを管理することだけであった。総会の主催とその中の意思決定は他の役員が行い、女性が行うことはなかった。

これにより、本ガイドブックの目的を次のとおり設定した。

農村開発のビジョンをもった積極的な活動を行えるような女性グループを設立すること

集落開発に関する過程において、女性が意識を持って積極的に参加できるように、彼女らの判断能力および自己評価を高めること。

女性グループの持続性を考慮し、グループを指導・支援すること。

1.2 本ガイドブックの各段階と内容

本ガイドブックで説明する実証調査で採った手法は、次の3つの段階に分け進められた。

第1段階

この段階では、女性を対象にいろいろな活動を実施することによって女性とプロジェクトとの信頼関係を築き、積極的な活動を行う女性グループの設立。

第1段階の活動は、目的と期待される成果によって、次の3種類の活動に分かれている。

1) 必要不可欠な活動

グループ員にとっての必要物と需要に応えられるような女性グループを設立するための基礎作りに必要な活動である。

2) 動機付けのため活動

女性を動機付け、組織化したグループの1員にするための活動であり、基本的には各種コンクール(例えば布絵など)、先進地見学、グループを通じて女性の実現させたい希望活動の明確化などに関係する。希望活動の明確化に関しては、女性が最も希

望する活動は、洋裁などの職能研修であった。職能研修は、女性がグループをつくるための最も強い動機付けとなった。

3) 女性グループを設立するための活動

職能研修など動機付けのための活動の後に行う活動であり、女性グループを正式に設立することが主目的である。活動の内容は、組織の重要性や集落開発における女性の参加の重要性、などに関する WS であり、そのためにグループを設立する必要性を女性に理解させる。

第2段階

第2段階では、女性グループが設立された後に集中的な研修を実施した。実際には、職能研修のために女性達が集まっている時を利用し、2週間に1回から月に1回グループ集会を開き、女性の自己評価の向上や自然資源に関する各種研修を行い、自然資源に関する意識およびその問題に対応する能力の向上を目指している。

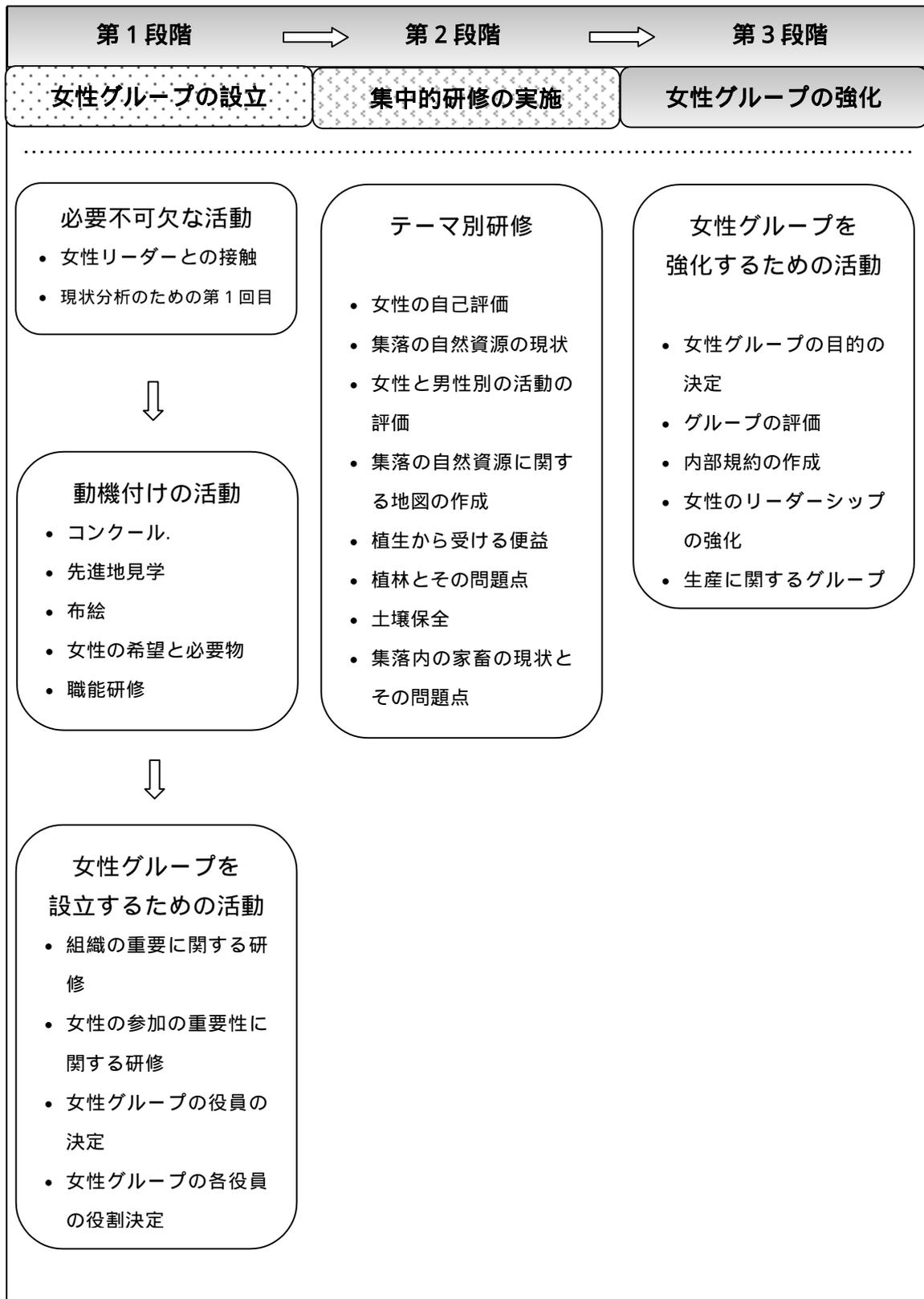
また、各研修はできるだけシンプルにし、全員を積極的に内容に参加させるように進める。ここでは、自然資源のテーマだけではなく、自己評価などに関しても、女性に考えさせ・意見を述べさせ、可能な限り各種問題に対する解決策を提案させる機会を与える。女性の自己評価が低いことは、集落の意思決定に参加しないための主な原因であると言える。

第3段階

ここでは、女性グループを強化するための活動を進める。

活動の具体的な内容は、グループをより機能させるための内部規約の作成、グループの目的の決定、生産活動の明確化・評価、女性のリーダーシップおよび創造力を高めるための研修などである。これらの活動により、女性に新たな価値観と責任感が発生し、グループを設立し、集落の発展に対する有効なサポートができるようになる。

図2 女性グループの組織化に関する段階



第2章

第1段階：女性グループの設立

第1段階は、対象集落の女性がプロジェクトの各種活動に参加する興味・意欲を持つかどうかについて現況把握をしたうえでグループを正式に設立し、役員を決定する段階までを含む。

本段階の主目的は、女性の生活状況を改善する活動を実施するため、集落の女性達が組織化を図れるよう動機づけを行うことである。実施された各活動については以下に説明する。

2.1 必要不可欠な活動

これらの活動は、まず、すべての活動において、女性達と協力プロジェクト等の間に信頼関係を築くことが必要である。そして、この過程において、組織化のために女性はどのような動機・興味を持つかを把握することが可能となる。この調査の結果次のような成果が得られた。

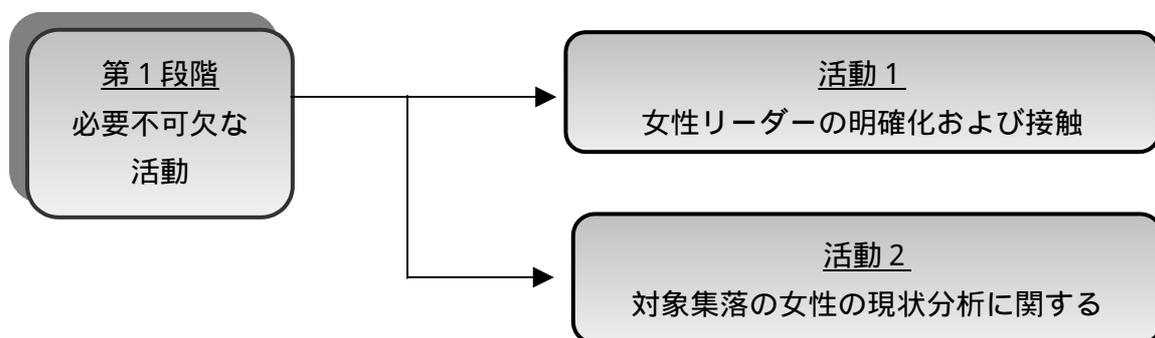
女性グループを設立することに貢献するようになった。

女性の最も優先的な必要物に対して首尾一貫して対応するようになった。

他機関の過去の失敗を見習い、繰り返さないよう意識を持った。

下図は、必要不可欠な活動をさらにふたつのテーマに分けたものである。

図3 必要不可欠な活動



2.1.1 活動1：女性リーダーの明確化および接触

実施戦略の中の「保全意識の醸成」(ガイドブック2を参照)の第1段階に関する集落活動の実施と平行して、農家訪問や集落ワークショップ開催の際、普及員はまず、集落の女性たちを指導している女性を明確にした。リーダーと呼べるような女性を探し出していくためには次のような基準を考慮するとよい。

集落総会において積極的に参加し、集落のため、そして女性のための各種活動を実施することに興味・意欲を示す女性

他の農家を指導し・動機付け、男女の平等性を求め、女性の参加を推進する女性
自己啓発、他人の発展のために新たな対策を求め、発展的・楽天的・連帯意識のある女性

女性グループの設立を支援したいと思い、かつ組織づくりの経験がある女性

しかし、集落の女性は、前記したように、このような活動には“興味を示さない”ので、潜在的な真の要望を探り出す必要がある。そのために、この段階で重視する女性とプロジェクトとの信頼関係は極めて重要であるが、普及員は彼女らの私生活にまで立ち入らないように公私をわきまえなければならないことは言うまでもない。

集落の女性リーダーを見出した後に、普及員は女性がグループを作ることに興味を持つかについて彼女らと話し合う。例えば、女性同士でグループ活動を行った経験があるか、過去に女性のグループが存在したか、その結果はどうだったか、などについて話し合う。また、過去に女性グループが存在し現在はもう存在しない場合、失敗の原因は何だったかについても話し合う。話し合いの際普及員は、WSを女性自身が進行していくよう彼女らを指導していかなければならない。

実証調査の事例...



トモロコおよびカイナカス集落で明確にした女性リーダーは、研修の結果集落総会に積極的に参加するようになり、女性グループを作るため十分動機付けされたと判断された。これらの女性は、過去においてグループでの経験があったため、女性グループづくりの際きっかけ次第で非常にスムーズに事を進められることがわかった。

2.1.2 活動2：対象集落女性の現況把握のための第1回WS開催

すべての女性がこの活動対象であることを通知するため、普及員は次に示す方法を用いてあらかじめ集落全体の女性をWSに招待する。

直接訪問

農家訪問は、実施戦略の中の「保全意識の醸成」(ガイドブック2を参照)の段階において「集落リーダーの明確化」のために行う。このときに、訪問した各農家の女性(15歳以上の者)も一緒にWSに参加するよう働きかける。

女性リーダー

女性リーダーは集落の他の女性に対して重要な影響を及ぼすため、これらのリーダーを通じて他の女性を招待すると出席率が高くなる。

集落総会

集落総会を利用し、普及員は、集落の発展のため女性が参加し指導を受けることが重要であり必要であることを説明し、広く理解を得る(次の枠の中を参照)。

参考....

出稼ぎのため、多くの男性が不在であることから、集落の発展を求めるならば、女性もこの過程に参加することが重要である。家族および集落を積極的にサポートする。女性は指導を受け、能力を高める必要がある。男性・女性とも指導を受け能力を高めれば、集落の発展の可能性が高まる。



WSの目的

実施戦略の内容を説明すること

過去に女性組織が存在したかどうか、女性が抱える問題点、女性の興味・希望など、女性に関係する状況を把握し、これについて考察すること

WSに期待される成果

プロジェクトおよび実施戦略の内容を把握している女性が育成される

女性の最も重要な動機が明確にされる

今後実施するいくつかの活動の計画案が得られる

表2 WSの内容

区分	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ1	20~30分	紹介	「半分の絵」技法
ステップ2	20~30分	プロジェクトおよび実施戦略の内容の説明	口頭説明 自然資源に関する絵
ステップ3	60~70分	集落の女性の現状分析	ブレインストーミング方式、模造紙
ステップ4	20~30分	次の活動の計画	ブレインストーミング方式
合計所要時間：120~160分程度			

ステップ1

「半分の絵」(Figuras partidas)技法(「参加型研修のすすめ方」を参照)を用いて、普及員を含め、全員が自己紹介し、WS を始める。自己紹介の際、名前以外に、各参加者になぜWSに参加しようと思ったかについて説明させる。

ステップ2

実施戦略および、集落においてプロジェクト側が実施したい活動内容について説明するためには自然資源に関する絵(ガイドブック2 附属資料参照)を用いる。また、集落の発展のための女性の参加はどの程度重要であるかもここで説明する。

ステップ3

ここでは、次に示す質問に対して女性に答えてもらう。

過去に女性組織が存在したことがあるか。それは何時だったか。組織化するための動機は何だったか。組織はどれくらい続いたか。

その組織は全員の期待に応えたか、 Yes または No、それは何故か。

組織の失敗の原因は何だったか。

新しい組織を作りたいと思うか、 Yes または No、それは何故か。

新しい組織を作るとしたら失敗しないため何をしたらよいか。

グループ員の参加を動機付けるためにはまずどんな活動を行うべきか。

WS は、ブレインストーミング方式を用いて参加者一人一人に質問し、答えを普及員が模造紙に記録する。これはその後、グループワークを通じて、現状分析・反省・動機付けの際に利用する。

の質問で女性が答えた活動について、なぜその活動を行うべきと考えたか、どうすればこれを実現することができるかを加えて質問すると良い。これを知ることによって、活動を実現するために必要な要請手続きおよびこれに関わる責任(特にコスト分担)を背負うかなどに関する女性の考え方を把握することができる。

すべての質問に答え終われば、普及員は、女性の共通の目的や希望を達成するため組織化することが重要であることを強調して説明する。このためには次の枠の中の内容を利用すると良い。

参考...

- ・ 組織化していればより高い成果を短期間で得ることができるが、現在のように組織化していなければ何も得られない。
- ・ 組織化していれば、女性の考える需要や必要物を開発機関等に知らせることが容易となる。
- ・ 組織化していれば全員が互いに支え合い、心強くもなる。
- ・ 過去女性グループが失敗していても、その経験は、次の失敗を防ぐ知識となる。



ステップ4

WS を終了する前に、女性の参加を動機付けるいくつかの活動（例えば、現地料理コンクール）を計画する（第4章「動機付けのための活動リスト」を参照）。

参考....



参加者の大部分が読み書きできるのであれば、前ステップの質問はグループワークで答え、その結果をグループ別に全員に紹介すると良い。

実証調査の事例....

通常、第1回目のWSに参加する女性は非常に少ない。例えば、トモロコ集落の場合は13人のみであった。

女性の話によるとこの集落では過去に2回、それぞれ違った機関を通じて女性を組織化したことがあり、両組織とも手細工（刺繍・編み物など）の他に、保健・栄養・衛生などに関する似たような活動を行っていた。

組織の失敗の原因としては、実施機関の援助食料がなくなったこと、女性の資金管理能力が不十分であったこと、計画した活動を満たさなかった場合の罰金が高かったこと、唯一の女性リーダーが亡くなったことなどが挙げられる。

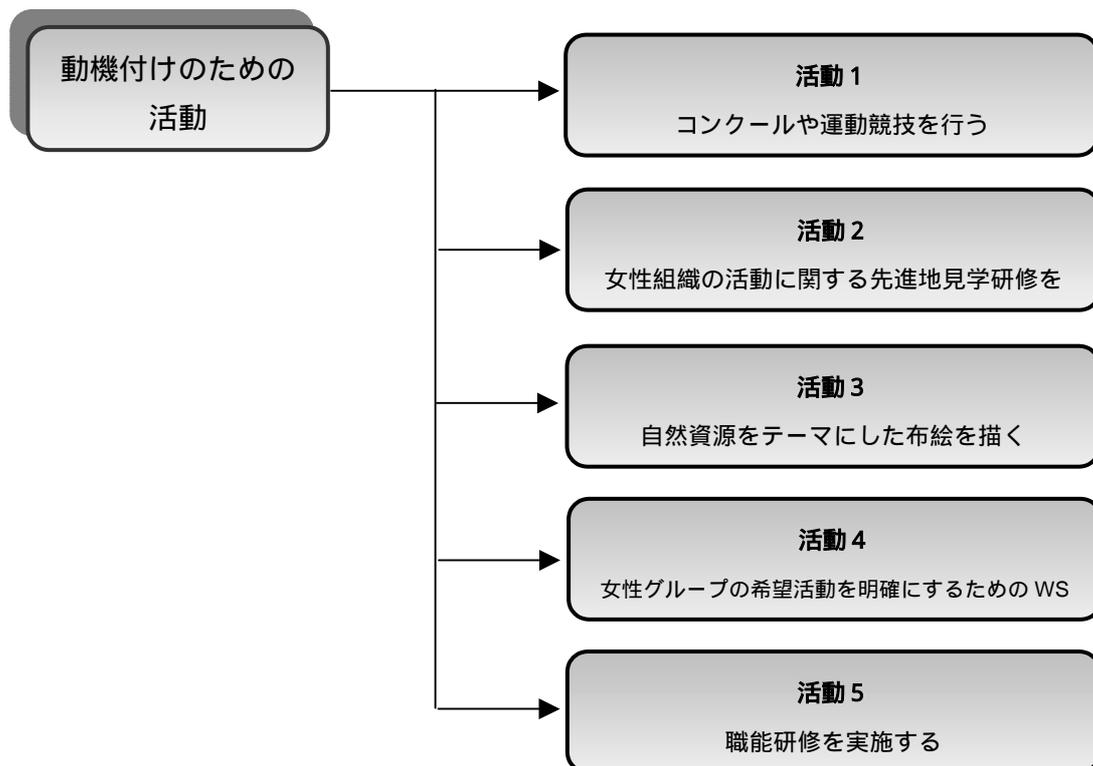


2.2 動機付けのための活動

農村の女性を対象にした活動の中で最も難しいことは、情報を提供する集會に女性を参加させることである。動機付けのための活動の目的は、女性にグループを通じて各種活動に参加する興味を持たせることである。

集會に参加し、グループを作るために女性の動機付けに効果的な活動を次の図に示す。

図4 動機付けのための活動



2.2.1 活動1：コンクールや運動競技を行う

これらの活動の実施は、グループ活動に参加するよう女性を動機付ける手法のひとつであり、女性の競争意識を高め、共通目的を達成するためグループ内に融和・組織・協力・調整・計画の意識を発生させる。女性がこれらの活動に参加するための条件は、参加したいという気持ちが必要であり、グループの人数は活動内容によって決める。例えば、「現地料理のコンクール」のためには、3～5人のグループが目安であるが、運動競技の場合は人数が増える。

女性を対象に実施できる活動は数々あるが、彼女らが強く興味を示すのは次のとおりである。

料理コンクール

菓子づくり（パン、ケーキ、クッキーなど）のコンクール

運動競技（フットサル、マラソンなど）

各種ゲーム：「洋服結び」、「ふくろとび競争」、「猫車競争」など、参加者の交流を高めることに適したゲーム（「参加型研修のすすめ方」を参照）

コンクールまたは運動競技を終わる前に、女性組織の活動が成功している他地域の見学研修の計画を立てる。この研修に参加できる人数は概ね 20 人と判断されたので、その人選を行うための基準を次に示す。

16 歳以上で責任感のある女性

積極的に参加し、人の前で話すことを怖がらない、リーダーシップのある女性

グループ活動に関して悪い印象を持つ女性、つまり目的達成のため組織化は無効であると思っている女性



写真 2.2.1 お菓子づくりコンクール

2.2.2 活動 2：女性組織の活動に関する先進地見学研修を行う

女性といっしょに見学研修の計画を立てる前に、普及員は研修先を探し、研修内容およびスケジュールなどの準備を事前に済ませておかなければならない。

女性にとって効果的な見学研修になるため、研修先は次のような条件を満たさなければならない。

地形・気候条件が対象集落に似ているところ、またはより厳しいところ。

女性のしっかりした組織が存在し、活動期間が長く、グループ管理（例えば、グループ内の問題解決、規格管理、各種活動の実施など）の経験が豊富であるところ

グループ員の積極的な参加を通じ高い成果が得られ、家族および集落の発展に良い影響を及ぼしている女性グループが存在するところ

見学研修の目的

グループを作るよう女性を動機付けること

他地域において、グループ員が積極的に参加している様子および、グループ組織を通じて得られた成果を女性に見せること

見学研修に期待される成果

組織化することに関して女性の興味が高まる。

生活状況の改善に貢献する各種活動を実施することに関して女性の興味が高まる。

研修先において、受け入れ側と研修生たちとの間の情報交換がスムーズに・楽しく・有意義に行われるよう、普及員から受け入れ側に次のような質問をする。

組織はどのぐらいの期間活動しているか。

組織化するためのきっかけは何だったか、当時どのような問題が生じたか。

通常、どのような活動を行っているか。

何かの問題が生じた場合、その解決のため誰かから支援を受けているか、あるいは問題はどのように解決しているか。

グループの活動はグループ員の家族または集落にどのように貢献しているか。

また、研修生たちからも、見たこと・聞いたことに対して質問やコメントをするように働きかけていく。

見学研修から集落に戻れば、女性グループの次回の集会を利用しその評価を行う。研修評価のためには、まず研修生から全員に研修の内容を順序を追って説明させる。次に、グループを通じた女性の参加の重要性について参加者に考察させるため、普及員は次に示す質問を投げかける。

研修についてどう思ったか（遠い近い、疲れた、行く甲斐があったかなど）。

先進地で見学したものの中で最も興味深かったことは何か。

先進地で見学したものの中で、集落に取り入れられると思うものは何か。

研修で見聞きした活動の何をどのように改善したらよいと思うか。

ある出来事....

ある集落の女性グループが他の集落を視察した際のこと、バスの一番奥の席にいた参加者が途中で寝てしまい、研修先に着いて全員が降りても、そのまま眠り込んで取り残されてしまった。運転手さえバスに鍵をかけて昼食を食べに降りた。皆が昼食を終え、視察が始まっても取り残された農民のことは誰も気づかなかった。研修が終わり全員がバスに戻った時、その人は、「バスのドアを閉める音で目が覚めたが、声をかけても誰にも聞こえなかった」と恥ずかしく言う。寝てしまったため昼食も食わず見学研修に参加できなかったために全員大笑い！



2.2.3 活動3：自然資源をテーマにした布絵を描く

布絵の活動は、女性同士の融和を維持するため非常に効果的な活動である。なぜなら、活動の最中に、グループを通じてやりたいことや希望することなどについて意見交換ができるからである。

女性の活動を始めたばかりのころは、集會に遅刻してくる人が多く見られた。このため、その待ち時間を利用して、既に来ている女性達だけで布絵を作るようになった。また、女性が布絵で描くひとつひとつの絵は、彼女らの身の回り・生活状況・必要物などと直接関係している。布絵を通じて、女性は地域の自然資源の現状についてよく考察し、これを基にこの自然資源の管理と保全のための対策をいくつか提案することができるようになった。

「自然資源をテーマにした布絵を描く」目的

グループの集會に参加するよう女性を動機付けること
自然資源保全に関して考えさせ、意識改革を行うこと

「自然資源をテーマにした布絵を描く」ことに期待される成果

プロジェクトの各種活動に参加することに興味を持つ女性が得られる。
自然資源の重要性・現在の問題点に関する基礎知識を身につけ、意識を改革した女性が育成される。

次に、布絵活動に必要な資材を示す。

長さ1m以上の白い布
布用ペンキ、異なる大きさの筆
自然資源に関するサンプル絵

布絵活動を始めるためのペンキ、筆、サンプル絵はプロジェクト側が負担し、グループに援助する。資材は1回に限り、グループ代表者にまとめて渡す。ペンキと筆の

数は参加者の人数によって異なるが、ペンキは5人に12個入りの箱を1つ、そして筆は各参加者に1本が望ましいが、布だけは参加者が持ち寄ることとした。

実証調査の事例....



トモロコ集落では、参加者 20 名に対してペンキを 3 箱、筆を 12 本のみを援助したが、20 名の参加者がいたため資材が不足し、絵を完成できなかった女性がいた。また、布は各参加者が持ち寄ることになっていたが、布さえ買えない女性があり、残念ながら活動に参加できなかった。

これを受けタラワンカ集落では、参加者 15 人に対してペンキを 3 箱、筆を 24 本援助し、布は「現地料理コンクール」の参加賞として渡した。このようにした結果、「布を手できなかったから活動に参加しなかった」と言う者は一人もいなくなった。

布に絵を描くためのサンプル絵は、自然資源のテーマと直接関係しているものでなければならない。例えば、山羊による植生の食害、保全対策、植林事業における女性の参加、ため池づくりなど。本ガイドブックの付属資料 2 にいくつかのサンプル絵を紹介している。

布絵活動を始めるときに、参加者にサンプル絵をいくつか渡すが、その後は、女性が自然資源の重要性をどう感じ取っているかによって、独自に新しい絵を描くようにさせる。



写真 2.2.2 布絵の活動

ステップ 1

3～6ヶ月間続く布絵の活動を始める前に、普及員は女性を対象に、「人間と自然との関係」技法（「参加型研修のすすめ方」を参照）を用いて、自然資源の重要性について説明を行う。次に、サンプル絵をいくつか紹介し、それぞれのメッセージを強調する。

布絵の活動は、月に1回または2週間に1回行う女性グループの集会のときに行う。参加者が布絵を完成していけば、次に示す質問を基に、絵のメッセージについて全員で考察し、内容について考察する。

絵はどんな意味を持つか。

集落では、絵に描かれたような状況が生じているか。

この状況はどうすれば改善することができるか。

自然資源の劣化を止めるためには、女性は何をすべきか。



ステップ2

参加者全員が布絵を完成すれば、展示会を開き、各参加者は審査委員に絵の内容と意味、その絵を描いた理由などを説明する。展示会の目的は女性が積極的に参加するよう動機付けることと、彼女らの自己評価を高めることである。

布絵の評価のためには次に示す基準を考慮することを勧める。

知識と創造力：絵に表された自然資源に関するその人の知識、その絵を描いた理由、絵のメッセージ

見栄え：布の清潔さ、飾り物の有無など、絵だけではなく布絵全体の見栄え

数：展示した絵の数

布絵を評価し、絵を描く能力および創造力を持ち、自然資源の重要性およびその問題点に関する知識を持つ優秀な女性のグループが得られる。優秀な女性を表彰するとともに、全員の自己評価を高めるために、他の参加者にもちょっとした賞品（苗木、台所用品など）を渡す。

実証調査の事例.....



トモロコ集落では、布絵活動は、保全リーダーを対象にした水土保持対策に関する活動と同じ時期に行われた。布絵活動の受賞者は一人の保全リーダーの娘であり、絵の内容は侵食過程と侵食防止対策であった。

絵には、ふたつの山とその上に雲があり、雲から雨が降り、地上に落ちる雨滴は土壌侵食を起こしている様子が描かれていた。また、土壌流亡を防ぐため、等高線をつくる時に使う「A字型レベル」の横に2つの石積み描かれていた。そして山には、土壌侵食を防ぎ、土づくりに役立つたくさんの木が描かれていた。絵の評価のとき、彼女はその内容を細かく、きちんと説明した。

この活動の賞品は、トモロコでは“Tumbo”という果樹の苗木で、参加者全員に参加賞として2本ずつ、優秀な絵には同じな苗木を4、5本渡した。

《農家の声》

- ・「自分たちで描いた絵を見てとてもうれしい。集会に出席していなければ絵を完成することできなかつただろう。グループだと全員で互いに励まし合い、何でもより楽しくできる。」（シリチャカ集落）

.....

・「この活動は非常に勉強になった。中には絵を描くことさえ知らなかった人もいたが、今は全員絵が描ける。絵を描くのが好きだ。絵の意味についても勉強になった。」(トモロコ集落)

・「布絵を通じて、土壌の重要性と、水分を高め・土をよくするため石積みなどの保全対策の重要性を理解することができた。」(トモロコ集落)

2.2.4 活動4：女性グループの希望を明確にするためのWS

集落活動において、女性の参加は限られているため、普通男性ばかりで構成されている農家組合は、女性の需要や必要物などを無視するか、または優先しないことがよくある。このため、女性は自らの希望する活動について発言することによって、考察し、外部に知らせることが重要であること、ならびにそのための組織化を図ることが必要であることに気づかなければならない。

女性グループの希望を明確にするWSの目的

女性の希望を明確にし、それを実施するためひとつに絞る

女性共通の必要物および希望する活動を実現するため最も適した方法を生み出す機会をつくること。

「女性グループの希望を明確にする」WSに期待される成果

希望活動のひとつを実現することに対して参加者の期待が高まる。

実施のため、ひとつの希望する活動が(職能研修)優先される(希望活動を実施するため、女性は負担金を払うなどいくつかの条件を満たすことを約束する)。

表3 第1段階活動4の内容

ステップ	所要時間	内容	用いる技法および必要なもの
ステップ1	20～30分	女性の希望活動の明確化	ブレーストーミング
ステップ2, 3	40分	希望活動の整理、議論、優先順位決定	模造紙にまとめる方法
合計所要時間：60～70分程度			

ステップ1

各参加者にカードを配り、グループを通じて行いたい希望活動を書いてもらう。これには、20～30分程度要する。

ステップ2

参加者全員が希望活動を書き終われば、普及員はカードを収集し、ひとつひとつ壁に貼り、内容を大きな声で読み上げていく。参加者が何も恐れず堂々とアイデアを表現できるようにカードは無記名とする。

ステップ3

カードに書かれた希望活動すべてを模造紙に整理する。模造紙の中には、女性自らが活動毎に決定した優先順位を記入する欄を設ける。

参考....

読み書きできない女性がいれば、読み書きできる他の参加者に協力を求める、またはWSを進めている普及員が協力する。

カードを利用する目的は、組織化の動機である女性ひとりひとりの希望活動すべてを収集することである。このため、読み書きできない人を支援する参加者は、他の参加者に聞こえないようにアイデアを聞き取りカードに書き込む。



次に、カイナカス集落の女性が希望した活動のリストを紹介する。尚、この優先順位は農民女性が独自に決定したもので、実証調査側による順位ではない。

表 3.1 女性により要望があった活動の一覧

希望活動	事前に必要な活動 または条件活動	優先 順位	要請・実施の責任
洋裁研修	研修用の会場を作ること。研修を受けたい女性のグループを作ること	1	実証調査.
女性グループ用の多目的集会所建設	集会所建設に必要な土地の使用権を農家組合に要請すること	2	女性グループ役員、実証調査
機械編み研修	集会所の建設、女性グループのメンバー維持	3	女性グループ役員、実証調査
現地のショール（「マンタ」）編み研修	農家組合と調整し、他機関に要請する	4	女性グループ役員
グループレベル・農家レベルの野菜生産	グループの野菜畑に必要な土地の所有権を農家組合・小学校に要請すること	5	女性グループ役員、実証調査
野菜の料理研修	野菜生産	6	実証調査、女性全員
野菜の重要性に関する研修		6	実証調査.
大人用の読み書き教育	農家組合と調整し、他機関に要請する	7	女性グループ役員
組織に関する研修		8	実証調査
家畜衛生管理に関する研修	農家組合と調整し、他機関に要請する	9	女性グループ役員
菓子づくり研修		10	実証調査、女性全員



実証調査の事例...

プロジェクトが活動したどの集落においても、女性が最も希望する活動のひとつは、子供たちの洋服や自分の衣類が作れるようにするための洋裁研修である。洋裁研修は、女性の参加と組織化を動機付けるため最も重要な活動となった。

2.2.5 活動5：職能研修の実施

上記の事例に見られるように、洋裁研修は女性グループが最も興味を示す活動である。よって、このような活動は、動機づけに最適であると言える。このように職能研修の実施は、受益者が興味を持つ活動でなければならず、その活動をグループ単位で行うことによって組織の重要性を認識し、生活を良くしていくことにつなげていくという意味を持っている。

実証調査の事例...

トモロコ集落のほとんどの女性が、プロジェクトの活動に興味を示さない期間が約8ヶ月間続いた。これまでの活動には13～15人の女性のみが参加していた。だが、洋裁研修が始まった頃、この状況は極端に変わり、40人以上におよぶ女性がグループに入会することを希望した。夫と二人で、入会を申し込みに来た女性もいた。



40名という人数は非常に多かったため、30名のみを入会を認めることにした。集落内での付き合いが長いこと、女性リーダーは、新しく入会を希望する者の発展に関する意識やグループ内で協調性を保てるかどうかについて判断できることから、30名の選定にはこれまでの活動に参加した女性リーダーの意見を参考にし候補者を一人ずつ選んでいった。

実証調査の中では、職能研修を進めるに当たって、女性グループおよび調査側の双方で、活動内容についての「グループ事業総合計画書」を作成した。次に、職能研修の実施に関する女性グループと調査側との実施協定でもある「グループ事業総合計画書」の最も重要な項目をまとめて紹介する。

a) グループとの打ち合わせ

打ち合わせでは、「グループ事業総合計画」に関係する細かい内容について検討する。例えば、洋裁研修を基本事業として、それに必要な事前事業、基本事業に付随する条件事業（植林、自然資源研修への参加など）、技術や機材の維持に関する事項、および参加者の義務と責任（例えば、欠席した場合の罰則、負担金など）について取り決める。

b) 「グループ事業総合計画書」の作成、内容の承認とその署名

「グループ事業総合計画書」を作成する前、普及員は事前に、活動に必要な資材の数量とコストの見積もりをとらなければならない。打ち合わせで決定した内容と見

積みりの結果を基に、「グループ事業総合計画書」を作成し、参加者全員が内容を承認すればこれに署名する。

c) 職能研修の指導者の雇用

洋裁研修の実施期間は概ね2～3ヶ月間を要するが、この期間は参加者の人数や学習能力に応じて延長する可能性がある。

d) 研修の実施

研修を始める前に、必要な資機材（概ね下記のとおり）すべてを揃える。

ミシン（中古）：最低、研修者2～3名につき1台以上とする。
縫い糸、針、糸巻き、はさみ、工具、ミシン油、物差し、メジャー等
布などの材料

なお、実証調査では、中古の中国製手回し式ミシンを購入し、研修者に使用させた。

e) 研修の追跡

普及員は、研修実施期間中および終了後、研修者の追跡を行う。

以上であるが、洋裁研修にて高い成果を得るためには次に示す点をよく考慮すべきである。

研修員は30人が限度であった。これ以上の人数だと指導と学習の質が落ちる。狭い集会所と限られた台数のミシンを全員で効率よく使用するためには、参加者を2つのグループに分け、ひとつのグループは、例えば月曜日から水曜日、3日間連続して研修を受け、もうひとつは木曜日から土曜日に受けるよう計画した。他の女性の参加を促進するため、研修終了後、成果品の展示会を開く。集落住民、特に研修に参加した女性の夫たちや集落リーダーなどが女性グループの活動に理解を示すようこの展示会に参加させることが重要である。

グループ内に発生した問題の解決を支援するため、また研修終了後も洋裁を練習し続けるよう女性を動機付けるため、普及員は研修実施期間中、研修員と集会を開催し、研修の追跡を行う。

《農民の声》

- ・「私の様に読み書きできない女性にとって、教えられたことを頭に入れておくことが難しい。洋裁研修の最初の頃はメジャーの使い方さえ分からなかった。」（カйнаカス集落）
.....
- ・「昔、親は食べ物と売物が少しあればそれで満足していたが、今は食べる分さえ足りない。だから、生活をよくするためには何か他の職を身につけなければならない。今は作物と家畜だけを頼りにして生きていけるとはならない。」（トモロコ集落）
.....

- ・「前はミシンの使い方なんて全く分からなかったが、研修で使えるようになったのでとてもうれしい。」（タラワンカ集落）

ある出来事....

ある対象集落では、女性用の洋服づくりを学ぶことに興味を持った数名の男性が洋裁研修に参加することを希望した。最初は冗談に過ぎないことだと全員が思っていたが、洋裁研修が始まり、男性は洋服づくりに積極的に参加し、現在でも女性グループの活動に参加している。



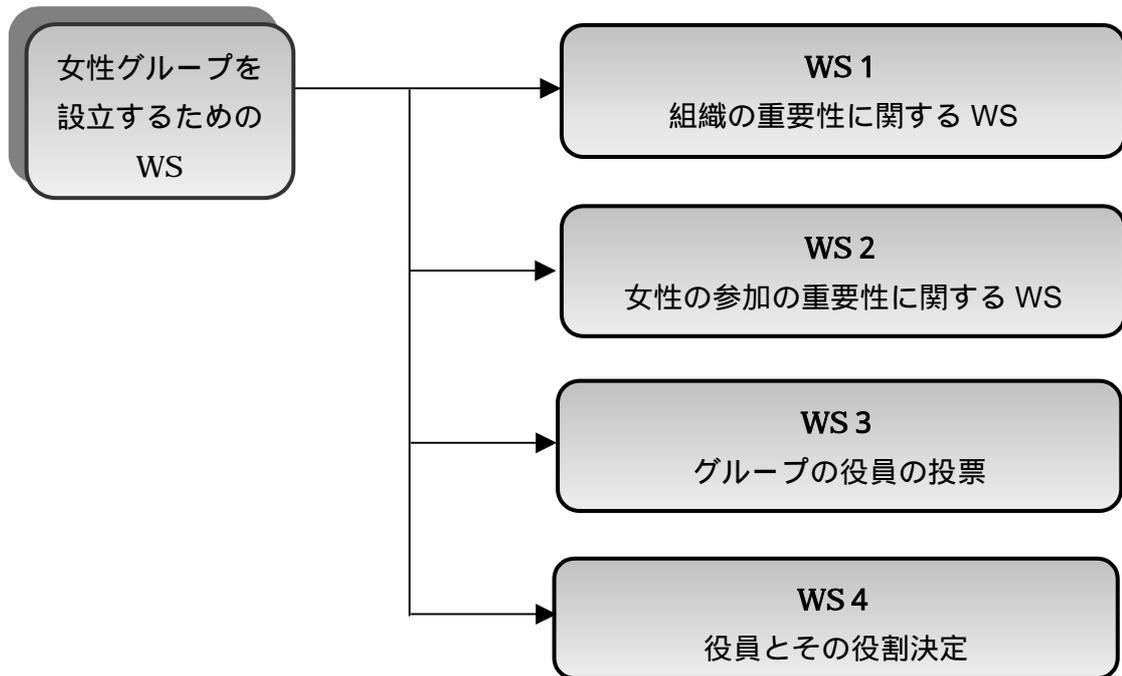
2.3 女性グループの設立

女性にグループを正式に設立する必要性を理解させるため、彼女らを動機付け、グループの基礎をよく固めるため、次に示すようないくつかの事前活動を行わなければならない。



写真 2.2.3 洋裁研修

図5 女性グループ設立のための活動



2.3.1 WS1：組織の重要性

ほとんどの女性は集落内で起きていることをよく自覚しているにもかかわらず、組織化することのメリットについてはほとんど何も知らないことが多い。例えば、集落の農家組合はどのように機能しているか、または何のために設立されたかなどさえよく知らない。

ほとんどの女性はグループに参加する機会を持たないため、組織のメリットを実感することができない。このため、このWSは、女性に組織があることのメリットを教えること、これについて考えさせること、そして女性の共通目的を達成するためには組織化が必要であることを意識させることを目指している。

「組織の重要性」に関するWSの目的

女性を対象に、集落内に存在する各種組織（農家組合、協力プロジェクト、その他の組合など）のメリットについて教え、これについて考察させること。

女性の希望と必要物を満たすため、集落に存在する各種組織の支援をどのように活用することができるかについて考察させること。

女性組織に積極的に参加させるため、女性が現在どのような制約を受けているかを明確にし、それについて考察させること。

「組織の重要性」に関するWSに期待される成果

組織で活動することのメリットを十分理解した参加者が得られる。

女性グループ設立の制約に対する解決策が参加者によって提案される。

表4 組織の重要性に関するWSの内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ1	30分	集落内に存在する組織のリストアップと活動内容の明確化	ブレインストーミング方式
ステップ2	40分	良い組織のメリット	女性を考えさせるための絵
ステップ3	40分	グループを設立する場合、女性に関わる障害・制約の明確化	グループワーク、全員での議論
合計所要時間：110分程度			

ステップ1

ブレインストーミング方式を用いて、集落内に存在する各種組織をリストアップし、それぞれの活動内容を明確にする。参加者が挙げていく意見やコメントは次に示す様式に単純に整理していく。

組織名	活動内容または受益内容

上のリストと次に示す質問を基に、各種組織の重要性と集落に及ぼす貢献について考察する。

これらの組織が集落内に存在しなかった場合、今の集落はどうだったか。

これらの組織は集落の発展にどう貢献しているか。

リストの組織のうち、集落にとってどれが最も重要か。それは何故か。（注意：ここでは農家組合が集落の中で最も重要な組織であることにたどり着きたい）

集落を代表する農家組合の重要性および現状について女性が考察するため、ブレインストーミング方式を用いて、次に示す質問を投げかけ、回答を収集する。

農家組合を通じて、これまでどんな受益を得たか。

現在、農家組合はどのように機能しているか。

現在の機能の仕方でよいか。何か改善する必要はないか。

参考....



集落の農家組合は、農家の権利を保護すること、生活状況を改善すること、集落を営むことを目的として、1953年に設立された。農家組合 = 農家組合のリーダー（組合役員長）と、よく勘違いされるが、農家組合は、リーダーの他に、役員メンバーおよび組合員から構成されている。

ステップ2

女性が組織のメリットについて考察するために、ガイドブック2の付属資料3の中にあつた絵3および4を用いる。これらの絵のメッセージについて参加者が考察するため、まずは絵3だけを紹介し、これについて十分考察した後に絵4を紹介する。最後に、絵3および絵4が表す状況のどちらがよいか、目的達成のためどちらの状況が有利であるかを女性に選ばす。

ブレインストーミング方式を用いて、絵4を基に、女性組織と農家組合とが互いにうまく調整した場合に得られるメリットについて考察する。

参考....



農家組合は集落住民全員で構成されているため、組織がうまくいくこと、または悪くいくことも全員の責任である。例えば、組合員の生活向上のために農民リーダーが何もしていないことは、組合員たちがこれを強く求めず・それに向かつて協力しないからである。組合の役員は、一般組合員と同様に、事業を計画・要請し、開発機関に支援を求め、どうすれば集落を発展させることができるかを考えること、などを自らすることはしない。一般組合員も、総会に出席し・意見を述べ、役員が正しく機能しているかを監視するなど、組合員としての責務を果たさず、集落内に発生する問題をただ見るだけという消極的な姿勢をとることに慣れている。

このような状況の中で、生活を向上させるために農家組合のリーダーは何をしているか、一般組合員は何をしているか、という具体的な質問に答える必要がある。

農家はあれこれたくさんのことを求めるが、それを獲得するため努力することはしない。普及員はここで、例えば、集落の自然資源の劣化を止めるため集落は何をしているか、など具体的な例を挙げて集落組織の現状について参加者が考察することが重要である。

このステップの締めくくりには、参加者に次の質問を投げかける。生活を良くするために女性が組織化することが必要か。 Yes, No、それは何故か。ブレインストーミング方式を用いて、参加者一人一人に答えを求め、その答えを大きな模造紙にまとめ、結論を整理する。

ステップ3

上の質問に対する答えを基に、女性グループの設立にあたって女性はどうな制約や障害があるか把握するため考察する。これには、参加者を5人ずつのグループに分け、各グループ20分程度で、女性グループを作るにあたっての制約・障害を最低3つ明

確にする。その後、各グループの結果を全員に紹介し、紹介された制約・障害をなくすための対策を参加者全員で提案する。

実証調査の事例...

・パタリャフタ集落で挙げられた制約

- ・ 夫達は、女性は家事で忙しいため、各種活動に参加させない。
- ・ 数名の女性はグループで活動することにメリットがあると思わない、指導を受けることは大事であると思わない、今までの貧しい生活に慣れている。
- ・ グループの中には必ず問題や勘違いが生じる。参加者は忍耐力に乏しく、組織の機能の仕方が分からないため、すぐに飽きてしまい、最後にグループを脱退する。



・トモロコ集落で挙げられた制約

- ・ 女性は興味を持たないから何をしても参加しない、組織化して活動することの重要性に気付いていない、家にいて作物と家畜の面倒を見ることしか考えない
- ・ 数名の女性の場合、夫を亡くした上に小さい子供達がいるから参加できない。
- ・ 夫達は女性の貢献を評価しないため、女性の参加したい気を失わせる。

2.3.2 WS2：女性参加の重要性

開発過程において、男性とともに女性の積極的な参加は極めて重要である。女性が家庭内のことだけに従事していたのでは集落問題に対する総合的な解決策を生み出すことはできない。

現在、多くの農村において集落レベルの意志決定は男性のみで行い、各種機関に対して要請する内容も男性の観点からの要請だけである。このため活動の計画や実施の際、女性の必要物は通常考慮されない。だが、この状況は男性がそう希望するからではなく、女性が自分の参加は重要でないと思い、自ら引き下がるからである。

本 WS は、集落レベルの意志決定に関して女性の参加の重要性について、女性自身が考察することと、彼女らの発展に関するビジョンを把握することを目指している。

「女性参加の重要性」に関する WS の目的

女性が、農家世帯および集落全体の生活状況を向上させるため女性の参加の重要性について考察すること

集落の発展に関して女性の参加が重要であることについて、女性の意識改革を行うこと

「女性参加の重要性」に関する WS に期待される成果

集落の発展に関して、女性の参加は重要であることについて考察した女性が、集落の問題（自然資源の問題も含む）に対する自分たちのこれまでの消極的な姿勢を変えるための対策を提案すること。

表5 女性参加の重要性に関するWSの内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ1	30分	出席するだけの参加と積極的に参加する場合の概念	ブレインストーミング方式
ステップ2	40～50分	家庭レベルおよび集落レベルにおける女性の参加のメリットおよびデメリット	グループワークおよび全員での議論
ステップ3	50～60分	発展に関する女性のビジョンと姿勢（消極的であるか、積極的であるか）	「記憶ゲーム」技法
合計所要時間：120～140分程度			

ステップ1

WSのはじめに、ブレインストーミング方式を用いて、女性の観点から「積極的な参加」の意味を述べてもらう。普及員は、女性が挙げるコメントや意見を大きな模造紙に記録する。

女性が「積極的な参加」の重要性をよく理解するためには、普及員は、次の簡単な例を用いる。普及員は女性達に、「これからひとつの活動を行います（活動内容は言わないこと）。この活動には自ら参加したいと思う人数名が必要です。活動に参加したい人たちは起立してください。」と言う。このように、どの様な活動かもまだ知らないのに起立した女性達は、「積極的に参加」する人たちとすることができよう。

ここで普及員は、起立した女性に、なぜ自ら参加することを希望したか、起立しなかった女性に、なぜ参加することを希望しなかったかを聞き取り、答えを模造紙に記録する。普及員は、答えを基に、出席だけの参加と、積極的に参加することの違い、それぞれメリットおよびデメリットについて説明する。

参考....

・消極的な参加者とは

自分が興味ある活動だけを選び参加するためだけの人、または言われたことだけをする人のことである。グループ全体を良くするための貢献は一切しない。全員がグループに入会したから仕方なく自分も入会した人のことを言う。

・積極的な参加者とは

責任をもって、創造力をもって、積極的に（つまり、ものを提案し、勧め、責任を受け入れ）参加する人のことである。自分のため、グループのため、そして集落のためであれば何でもする人のことである。

上記の参加の違いを説明した上で、普及員は参加者に次の質問を投げかける。

どちらの姿勢が良いか。それは何故か。

どちらの姿勢の方が、自分たちの目的と集落の発展を達成することができるか。

女性の答えを考慮し、普及員は次の枠の中に示す内容を用いて、女性と考察を深める。

考察……



情報を得るため、新たな知識を身につけるために、グループに入会していることはよいことである。だが、集会にただ出席し、意見も述べず、何も提案せず、責任を背負わずでは、全員の目的の達成にはほとんど役立たない。失敗を恐れ、積極的に参加せず、女性たちで問題解決に努力しなければ、誰が女性の必要物を外部に知らせるか、誰が女性の希望する活動のための支援を求めるか。本当に生活を良くしたいという気があれば、女性の参加が必要なすべての過程に積極的に参加すべきである。

ステップ2

家庭レベルおよび集落レベルにおいて女性が行う活動の内容とそれぞれのメリットを把握する目的で、参加者を2つのグループに分ける。ひとつのグループでは、家庭内における女性の活動内容（家事など）を、もうひとつのグループでは、集落レベルにおける活動内容（例えば、農家組合・水利組合などで務めている役）をリストアップする。このグループワークには20～30分を要する。

活動リストが完成すれば、各グループの結果を全員に発表し、内容について考察する。次に、普及員は、家庭における女性の活動の数と集落における活動の数を比較する。集落レベルの活動の数が少ない場合、その原因とそのデメリットについて参加者と考察する。これには次に示す質問を用いる。

女性は何故集落の活動に参加することが少ないか。

女性が、自分たちのこと考え、自分たちの権利を求めなければ、誰が女性のことを考えてくれるか、女性の権利は誰が認めてくれるのか。

現在女性が取っている姿勢(例えば のようなと例を挙げて…)は正しいか。

どうすれば集落における女性の参加を高めることができるか。

ステップ3

集落開発における女性の参加の重要性を強調するため、「参加型研修のすすめ方」に示している「記憶のゲーム」を進める。ゲームが終われば次に示す質問を基に、ゲームの内容と現状を比較し、考察する。

集落において女性の参加は重要であると思うか、またそれは何故か。

女性が参加する、しないは、集落に影響を及ぼすと思うか、またそれは何故か。

家庭と集落の発展を支援するために女性はどのように参加し、どのような活動を行うべきか。

最後に、普及員は、次に示すメッセージを基に、集落開発における女性の参加の重要性についてまとめる。

☞ メッセージ

毎日、家庭の仕事を行うことは重要なことであるが、女性はそれ以外に、特に保健・教育・栄養などの必要物と直接関係している各種活動および意志決定に参加することも極めて重要なことである。女性の必要物や需要が他に理解されるように、自分たちの考え・意見を述べる必要がある。女性が農村開発に対して効果的にかつ有利に参加するためには、知識や能力を高め、農村を発展させられるようなテーマで活動すると良い。

2.3.3 WS3：グループ役員決定とその任命

集落発展のための組織および女性参加の重要性に関する WS に基づき、役員を決め、女性グループを正式に設立する。女性グループの役員は、会長、副会長、書記、会計係、スポーツ係及び秘書係からなる。

役員を選出にあたっては、できる限りグループ全員の参加が重要である。投票を通じて、役に最も適した人を選ぶ。投票は次のように進める。まず、会長および副会長を選ぶ。そのため、候補者を2、3名挙げ、投票により役を決める。残りの役には、それぞれに必要な性質・能力を持つ人を選ぶ。例えば、書記には読み書きができる者、会計係には責任感があり・資金を誠実に管理できる者、スポーツ係にはスポーツが好きな者。これらの役も投票によって決める。

役員が決まれば、集落リーダーが新しい役員を任命することになる。役員決定のための本集会を終了する前に、グループの活動を円滑に始めるため、普及員は、今後開催する集会の日時、頻度、グループ員がグループの集会・活動に欠席した場合の罰則、などに関するいくつかの決まりを決めておくが良い。



写真 2.3.1 グループ役員決定の様子

また、決まったばかりの役員は、各自が務める役割を把握するために、WS を開催する必要がある。WS の計画は、本集会で立てる。WS には役員および、読み書きできる女性数名の参加により開催する。



参考....

この段階では、女性グループを設立したが、グループ員にはまだ不安が残っており、グループも不安定であるため、ここではまだグループの「内部規約」を作成することはできない。むしろ、内部規約のことについてさえ触れてはならない。なぜなら、内部規約には、グループ員の責務や罰則が決められ、これらは女性を怖がらせ、脱会する原因にもなるからである。内部規約の作成については、本ガイドブックの第3段階（「女性グループの強化」）で詳しく触れる。

実証調査の事例....

パタリヤフタ集落における最初の役員は、研修が始まる前に決定されたため意識が低く、失敗であった。特に会長は、役員を決定する集会に参加しなかった人を選んだこともあって責任感のかけらも見られなかった。集会には、会長に選ばれた人の夫だけが出席し、妻に与えられた役は必ず果たすことを約束したが、その集会以来二人とも顔を出さなくなった。書記に選ばれた人も、グループには一切連絡せず、都市に出稼ぎに行ってしまった。



この経験を基に、役員決定は、職能研修を実施し、組織および女性参加の重要性に関わるWSを実施した後に行うべきであるという結論に至った。

2.3.4 WS4：役員役割

多くの女性は役員役割をよく知らないため、普及員は、役員役割について彼女らを指導する必要がある。集会の記録の取り方やグループの資金管理に関する訓練のため役員だけでなく、読み書きできる女性数名の参加によりWSを開催する。

「役員役割」に関するWSの目的

役員役割について考察すること

集会での記録の取り方について女性を訓練すること

グループの資金を適切に管理するための指導を行うこと

「役員役割」に関するWSに期待される成果

役員役割を理解するようになる

初期および会計の仕事を理解するようになる

表6 役員役割に関するWSの内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ1	30～40分	役員機能と役割	絵、模造紙
ステップ2	30～40分	グループの資金管理	グループワーク
ステップ3	50～60分	各種記録の書き方・取り方	グループワーク
ステップ4	30分	役員活動に関するシミュレーション	「役割のチェンジ」
ステップ5	10分	評価	ブレインストーミング
合計所要時間：150～180分程度			

ステップ1

「クモの巣」技法（「参加型研修のすすめ方」を参照）を用いて、各参加者が自己紹介、WS を始める。次に、普及員は、WS の目的と内容を説明した上で、役員が務める役割・責任について細かく説明する。説明には、次に示す内容を基に、事前に作った模造紙を利用する。

役割・責任	
会長	<ul style="list-style-type: none">- 女性組織の正式な代表者である- 集会を開催するため役員を招集する- 他の役員が役割を果たしているかをコントロールする- グループ員の必要物や希望を明確にし、協力機関に支援を要請する- グループ員が積極的に参加するように促す- 集会にて決議したことを遂行させる- グループ活動の内容とその進捗を関係者に報告する

役割・責任	
副会長	<ul style="list-style-type: none">- 会長を補佐する- 会長が不在の場合、その役割・責任を引き受ける- 役員およびグループ員との調整を図る

役割・責任	
書記	<ul style="list-style-type: none">- グループ宛の文章を受け取り、グループからの文章を発送する- グループに関するすべての書類を管理する- 集会における出席を管理する- 定例集会および特別集会の記録を取る- 他の役員といっしょに集会のテーマを準備する

役割・責任	
会計係	<ul style="list-style-type: none">- グループの資金管理の責任者である- 会計を管理し、勘定書を提出する- 他の役員を支援し、協力する

役割・責任	
スポーツ係	<ul style="list-style-type: none">- グループ内のスポーツイベントなどを開催する- スポーツイベントに女性全員が参加するように促進する- 他の集落のスポーツイベントに参加するために女性を組織する

役割・責任	
秘書役	<ul style="list-style-type: none">- 女性グループの集会・活動の開催について全員に通知する- 他の役員を支援し、協力する- グループ員が集会に出ているかを管理する

ステップ2

グループ資金の適切な管理の重要性について説明するため、参加者を2、3名ずつのグループに分け、次に示す様式を用いて、お金の記録に関する実技を行う。

日にち	収入・支出の内訳	収入	支出	残高
3/08/00	食べ物の販売	44 Bs.	-	
10/08/00	皿12枚、スプーン6本の購入	-	23 Bs.	
5/09/00	集會に欠席したための罰金	10 Bs.	-	
	合計	54 Bs.	23 Bs.	31 Bs.

会計系の練習

資金の動きに関する次のような練習を進める。(この練習には20分程度要する。)

「8月3日、資金稼ぎのため食べ物を売り、44Bsの収入があったが、10日に台所用用品(皿12枚、スプーン6本)を23Bsで購入した。また、9月5日に、集會に欠席した人たちから罰金10Bsを集金した。」



ステップ3

集會での議事録の取り方について説明するため、普及員は、特に定例集會や特別集會の議事録の様式を示す。(本ガイドブックの付属資料4にその見本を示している。)

次に、参加者(特に書記)に議事録(または記録)の取り方を練習させるため、2、3名ずつのグループを作る。議事録を基に、各グループは、普及員に指示されたいずれかの集會の議事録を作成する。この練習には40分程度要する。その後、各グループは作成した議事録を全員に紹介し、普及員は必要な修正を指摘する。

ステップ4

次に、グループの集會にて、各役員が取るべき行動のシミュレーションを行う。例えば、会長は集會を開催し書記は話される内容すべてを記録する。

ステップ5

最後に、ブレインストーミング方式を用いて、WSの良い点・悪い点に関する参加者の意見を基に、WSの評価を行う。

実証調査の事例....



すべての対象集落で女性グループの役員には次のような場合が見られた。
役員同士で十分なコミュニケーションが取られておらず、うまく調整していない。
集會の際、役員全員が一カ所にまとまり、そこから集會を盛り立てることがない。
資金を適切に管理することができない。収入や支出を記録することをよく忘れる。
このため、資金管理に関して他のグループ員から疑われる。
書記の弱点は資料の作成に慣れていないことである。

第3章

第2段階：集中的研修の実施

職能研修を実施し、女性グループの役員が決まった後に集中研修を実施する。研修は、通常月に2回開催される女性グループの定例会集を利用して行う。集中研修を実施する目的は、考察を通じ自然資源問題に関する女性の意識改革を行うことである。



写真 3.1.1 全員に結果を発表する

☞ この第2段階に期待される成果は、次に示すとおりである。

グループ員は、特に APEC（「集落現況診断調査および戦略的計画」に関するガイドブック5を参照）など、プロジェクトが推進する活動に積極的に参加する。

自然資源を大切にすることに関する女性の興味が高まる。例えば、水土保全対策コンクールの実施を支援する。森林規約の遂行を支援する。植林事業に参加する。

❖ 研修内容に関する注意事項

・研修の各 WS の内容について

女性の自己評価に関する WS を除き、本章で紹介する WS の内容は、「保全意識の醸成」に関するガイドブック2の段階

を進める WS の内容と全く同じである。「保全意識の醸成」の段階では、女性の参加はまだ限られているため、本段階において女性を対象に WS を繰り返し行った。

・研修で用いる技法について

WS を進めるため、最も頻繁に用いる技法は「グループワーク」である。その目的は、参加者の読み書きを促すことである。なぜなら、女性は、男性とっしょに集会に参加するときは、間違ふことを恐れ、読み書きしないからである。

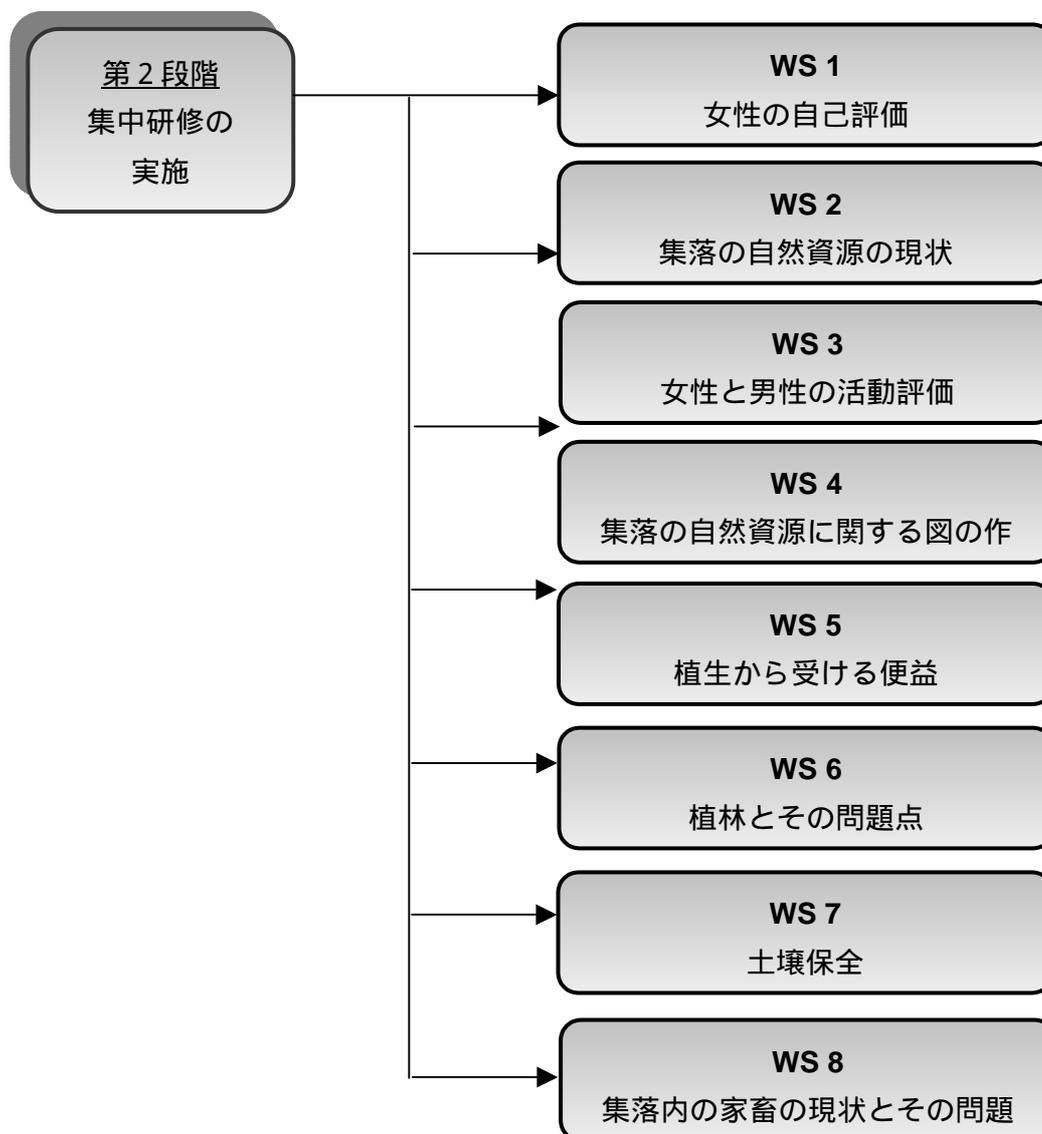
また、すべての集会を利用して、女性が発言するよう動機付けることもひとつの目的である。

・各 WS に要する時間について

女性は集会に参加することに慣れていないため、疲れるのが早い。したがって、各 WS は2～3時間程度にする。

本段階で進める各 WS の内容を、次の図にまとめる。

図 6 第 2 段階の活動について



参考....



図 6 に示す WS には順番を付けているが、普及員の都合などによりその順番を変えても結果に影響はない。必ずこの順番で進める必要はない。

3.1 WS1：女性の自己評価

次の証言で確認できるように、女性は、自分たちの能力を低く評価し、逆に欠点を強調する傾向にある、自己評価を低くすることは農村においては一般的である。

《農民の声》

- ・「私たち女性はよく考えないから話すときはいつも間違える。これに対して男性は総会でたくさんの人の前で話すことさえ怖がらない。」(トモロコ集落)

女性は自分たちの考え・希望・成果を低く評価するが、身の回りのものを評価する能力は持っている。このため、新たな知識を身につけ・生活をよくすることに挑戦せず、消極的な姿勢をもつ。今の貧しい生活、に満足しているように見える。自己改革に対する寡黙で消極的な姿勢により、女性は家庭外で行われる行為・活動から、絶えず自ら除外する。

このような状況の中で、本 WS の目的は、女性の弱点と能力について考察する機会を与え、これを基に自己改革につながるいくつかの変化・チャレンジを提案することである。

「女性の自己評価」に関する WS の目的

女性の自己評価を高める障害となっている恐れ・不信感・不安を明確にすること
自己評価を高める女性が持つ可能性、その方法について考察する機会を与えること

「女性の自己評価」に関する WS に期待すること

自分自身や家庭のため、あるいは集落のために参加する姿勢をもつ女性が得られる
グループ・集落レベルの目的達成のため女性の意見が重要であることを理解する

表7 女性の自己評価に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ1	15～20分	参加者の自己紹介	
ステップ2	15分	自己評価の概念とその重要性	ブレインストーミング
ステップ3	40～60分	質問に対し考察する	各自
ステップ4	30分	参加者各自の考え・意見を表す。	全員での議論
ステップ5	10分	評価	ブレインストーミング
合計所要時間：110～135分程度			

ステップ1

会場の内外から好きな品物をひとつ選ぶというゲームによって、参加者が自己紹介を行う。自己紹介の際、参加者はなぜそれを選んだか、自分とどのような関係があるかを説明する。

ステップ2

「自己評価」の意味とその重要性を理解するため、参加者がこれに関する意見を述べる。全員が述べた意見やコメントを基に、普及員は「自己評価」の意味と重要性を説明する。

参考....

《自己評価とは》

自己評価とは、各自の欠点と能力のまま自分を大切にし、評価し、自分自身の考えや気持ちを述べ、自己改革に影響する問題を解決することである。

全員の意見、アイデアはグループや集落の発展に役立つことから重要である。



ステップ3

次に示す質問を基に、参加者は自己分析を行う。

自分自身をどう見ているか、どんな人であると思うか。

他人は自分のことをどう見ているか、どう思っているか、自分はどんな人だと思っているか。

自分はどんな人になりたいか。

自分が求めていることを達成するためには何が足りないか。

参加者の自己評価を高めるための現実的で論理的な対策を提案できるように、普及員は参加者に、自己分析はできるだけ率直に、素直に行うようにと、繰り返し求める。

自己分析を行うため、参加者に模造紙半分とマジックを渡し、先述の質問に対する答えを書いてもらう。

参考....

読み書きできない参加者は、絵を用いて質問に答え、全員に内容を紹介する際に説明を加える。



参加者全員が答えを完成すれば、ひとりひとり、独自の評価結果を全員に紹介する。

ステップ4

全員の紹介を終われば、普及員は、女性の自己評価の向上を妨げている要素を強調し、紹介された結果を重要性および共通性を基にまとめる。例えば、ほとんどの女性から次のような答えが期待される。1) 人の前で話すことに対する不安(批判されることが怖い)、2) 家では誰も手伝ってくれない(仕事が多すぎる)、3) 希望することを実現するための資金がない。

明確にされたこれらの短所や共通点を乗り越え、女性の自己評価を高めるための対策を参加者と一緒に提案する。

ステップ5

ブレインストーミング方式を用いて、参加者による WS の長所・短所を基に、WS の評価を行う。

実証調査の事例...



カイナカス集落では、「自己評価」の意味を説明するため、普及員はまず、「評価すること」の意味を参加者に聞いた。これに対して、ほとんどの女性は、「評価することは、何かを大切にすることである。」と答えた。女性は何を大切にしているかと質問したら、子供・作物・家畜・身の回りの人達、と答えたが、自分のことを大切にしていると答えた人はほとんどいなかった。

希望していることを達成するにあたって女性の障害として、知的能力の不足が挙げられた。これは、女性が教えられたことを早く覚えることと、主導権を取るようになることを妨げているとのことである。職能研修など、何かの指導を受けるための資金を持たないこともひとつの障害として挙げられた。そして、一部の参加者によると、女性の興味不足・意欲不足、そして消極的な姿勢が、生活向上を妨げている障害であるとしている。

3.2 WS2：集落の自然資源の現状

このテーマは、「保全意識の醸成」の段階の集落 WS ですすでに進めたテーマであるが、この段階の WS (特に自然資源の問題点を分析し解決策を提案する WS) における女性の参加が少ないため、本 WS で女性グループを対象にこのテーマをもう一度繰り返す必要がある。今回は、女性の観点から、集落の自然資源の現状を分析し、解決策を提案するため参加するよう彼女らを動機付けることが重要である。

「集落の自然資源の現状」に関する WS の目的

女性の観点から自然資源の現状について考察すること

女性の観点から自然資源の問題点に対する解決策を生み出すこと

「集落の自然資源の現状」に関する WS に期待すること

女性グループは、集落における自然資源の問題の原因と影響について考察する。

女性グループは、自然資源の問題を認め、解決策を支援する責任をもつ。

表 8 集落の自然資源の現状に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	30 分	自然資源の明確化および分類	自然資源のサンプル
ステップ 2	60 分	自然資源の主な問題点、その原因と影響 議論・考察	グループワーク 全員との議論
合計所要時間：90 分程度			

ステップ 1

自然資源の明確化で普及員は参加者に、自然資源だと思ふもののサンプルを取りに行くことを求める。サンプルの収集には 10 分程度用いる。参加者は自然資源と思ふものは何でも（例えば、植物、土、石、水、羊毛、お金など）収集してこなければならぬ。この中から、主な自然資源を明確にする。それは土・水・植物である。

ステップ 2

主な自然資源（土・水・植物）を明確にした後、これらの現状について考察する。まず、問題点とその原因を明確にし、可能な解決策を提案する。3 つの主な自然資源について考察するため、参加者を 3 つのグループに分ける。

作業をしやすくするため、各グループは、次に示す様式（模造紙に事前に準備したもの）を用いる。

- 様式例 -

自然資源名	現状	現状の原因	解決策	
			農家	各種機関

このグループ作業は 30 ~ 40 分程度行い、終了したらその結果を全員に紹介する。

参考....

各グループの結果の紹介が終われば、自然資源の現状が厳しいことから、より適切な管理ができるように集落住民全員の参加が必要であることを理解させる。例えば、これから実施する水土保全対策コンクールは、土壌流出量を減らすための対策を実施することに全員が参加できるとてもいい機会であることを強調する。



実証調査の事例....



タラワンカ集落では、次に示すグループワークの結果が紹介された。

・グループ1：植生資源

過去10年前と比べると、集落の植生資源は非常に少なくなっている。その原因として挙げられるのは、

- 1) 薪と販売用木材を生産するための過度な伐採、
- 2) 降雹・雨の不足などに関する近年の異常気象、
- 3) 植生が自然に回復するチャンスを与えずこれを食べ続ける家畜、である。

解決策として参加者が提案した対策は、1) 木を植えること、2) 家畜による食害を防ぐため家畜の管理を高めること、の2つであった。

・グループ2：土壌資源

集落の土壌は、作物も牧草も育たない程度まで侵食・劣化している。その原因として、土壌流亡を起こす強度の強い雨と強い風が挙げられた。解決策としては、雨による土壌流亡を防ぐため集落の全農家が石積みなどをつくること、そして防風林のため木を植えることが挙げられた。

・グループ3：水資源

集落内の水資源は少なく、その主な原因は雨が少ないことであり、この状況を改善するためには木を植え、地域に雨が集中するようにすることが挙げられた。

3.3 WS3：女性と男性によるそれぞれの活動評価

すでに述べたとおり、ほとんどの男性は妻が研修や女性グループなどに参加することを快く思っていない。女性の参加は、夫が不在の場合、または何らかの理由で集落の農家組合が招集した総会や活動に夫が参加できない場合のみ認められる。この場合、女性の参加は夫の代理にすぎない。

次の証言で確認できるとおり、妻が参加しない理由として、男性が挙げる理由は「家庭の仕事で忙しく時間がない」、「興味がない」などである。

《農民の声》

- ・「女性が参加したくないんだから、自分たちは強制できない。夫が妻に参加するようにと勧めても、彼女らは参加する興味がない。」(カイナカス集落)

.....

男性の意見とは異なり、女性によると夫は妻を応援しない、女性の貢献を歓迎しない、グループで身につけた知識を喜ばないということである。また別の証言では・・・

《農民の声》

- ・「夫達は、何かを学ぼうとする私たちの努力を認めず、女性グループの集会に行かせてもくれない。「集会にはもう何回も行っているから、洋裁はもう完璧だろう。何のため集会に行き続けるのか。」と言われる。」(カイナカス集落)

.....

- ・「夫に「俺達は農家組合の組合員であるから欠席した場合は罰金を払ってまで集会に出なきゃならないが、女達は欠席した場合は罰金を払ってまで、何のためにグループの集会に出なきゃいけないのか。」と言われる。」(カйнаカス集落)

- ・「夫に炊事や洗濯を手伝ってとお願いすれば、「何のために結婚したと思うのか。炊事や洗濯を自分でやるのなら今でも独身でいたはずだ」と言われる。」(カйнаカス集落)

このような現状であり、女性が活動に参加しない理由と集落の発展に対するその影響について、男性・女性一緒に考察する必要がある。このため、女性グループの研修やグループ自体に女性を参加させない男性および集落のリーダー（正式なリーダーおよび「自然リーダー」）を招待し WS を開催する。本 WS において、男女農家がいっしょに参加することは、集落を発展させるため男女の参加が重要であることを理解するために役立つ。

「女性と男性による活動の評価」のための WS の目的

集落の発展過程において女性の参加が重要であることについて男性集落リーダーの意識改革を行うこと。

集落の活動および研修などにおける女性の参加を制限している要因について考察すること。男女が平等に参加できるための対策を提案すること。

「女性と男性による活動の評価」のための WS に期待される成果

生活の向上および集落の発展を支援するために、男女で責任を分担することの重要性、男女が各種活動・研修に参加することの重要性について、男女農家の意識が高まる。

集落のリーダー達は、集落の女性の参加を促進し支援することを約束する。

表9 「女性と男性による活動の評価」のための WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	20～25分	参加者の自己紹介	夫婦別々に、「半分の絵」技法
ステップ 2	10～15分	「集落住民と生活のための活動」に関する入門	ブレインストーミング方式
ステップ 3	60分	男女別の活動内容とその評価結果の紹介	グループワーク、全員との議論
ステップ 4	30～40分	集落内の男女が行う活動、研修を受ける可能性について考察する	模造紙

ステップ 5	20～30分	女性の参加を促進し、支援することの必要性、その方法	ブレインストーミング方式
ステップ 6	10～15分	WS の評価	ブレインストーミング方式
合計所要時間：150分程度			

ステップ 1

「半分の絵」技法（「参加型研修のすすめ方」を参照）を用いて、参加者の自己紹介を進める。自己紹介の際、名前以外に、集落の農家組合内で務めている役、WS に期待する内容なども説明する。

全員が自己紹介を終われば、各参加者は受け取った「半分の絵」を保留しておく。これは、集落の発展に関する男女の参加の重要性について考察する際に役立つ。

ステップ 2

WS のテーマを始めるため、次の質問の内容について参加者と考察を行う。

集落は誰によって構成されているか。（男性・女性・子供達）
生活のため、集落発展のため、この人達は何をしているか。

通常、農家はこの質問に、「家庭内・集落内両方において数多くの活動を行っている」と答えるが、集落内において男性・女性両方が行う多くの活動を把握するため、グループワークを進める必要がある。

ステップ 3

作業のために、4つのグループをつくる。男性のグループを2つと、女性のグループを2つ。目的は、男女が行う活動について、それぞれがどう思っているかを把握することである。男性グループ1つと女性グループ1つは、別々に女性が行う活動のリストを作成する。そしてもうひとつの男性グループともうひとつの女性グループは、同様に別々で、男性が行う活動のリストを作成する。

各グループは、活動のリストを作成する際、農家レベル（家庭内）の活動と集落レベル（家庭外）の活動を分ける。これは、家庭以外の活動（研修や人を指導（リード）することに関係する活動）における女性の参加の程度について考察することに役立つ。また、家庭内の活動に関して、男性が女性を手伝う活動、またその逆の場合の活動について考察することにも役立つ。最後に、互いのサポートの程度について考察する。



写真 3.3.1 男女の WS

グループワークによるリストの作成には 30～40 分程度を用いる。完成すれば、各グループは全員に結果を紹介する。

ステップ 4

各グループが紹介した結果を基に、普及員は次の 2 点を考慮して考察を進める。

1)男女別の活動について

同じ内容（女性が行う活動内容、または男性が行う活動内容）について、男性グループと女性グループとでグループワークの結果が大きく違う場合、次の質問を投げかける。

ふたつのグループの結果が大きく違うのはなぜか。

家庭レベル・集落レベルにおける互いの貢献を完全に自覚していないからではないか。

男女それぞれが行う活動を見逃してしまうと、生活改善に貢献している事項を把握すること、評価することはできるだろうか。

2)男女別の（家族・グループ・集落レベル）活動数および研修を受ける可能性について

男女が行う家族・グループ・集落レベルの活動の数が、男性グループと女性グループで大きく違う場合、次の質問を投げかける。

女性はグループ活動や集落活動になぜ参加しないか、またはなぜ参加することが少ないか。

集落の発展のため女性の参加は重要ではないと思われるか。

女性の参加を得るため、集落リーダーはどんな対策をとっているか。

家庭内の活動に男性があまり参加しないのは何故か。

男女ともが同じチャンスを持てるため、責任・責務を分担しないのはなぜか。
現在の姿勢で、生活を良くすることができると思うか。

男女それぞれが行う活動の数がほぼ同じである場合（男女とも作業時間がほぼ同じであり、同じチャンスを持つという意味となる）、両方が研修を受けられるためどうすればよいか、それとも片方だけが研修を受けるだけで十分かと質問をする。

参加者の答え・コメント・意見などはすべて記録し、全員で考察する。

参考....

男性が行う活動と女性が行う活動の数が大きく異なる場合、参加者が考察するため、それぞれの活動を交代する。このためには、男性を表す絵と女性を表す絵を用いて、全員に見えるように、女性が行う活動をひとつ選び、その横に男性の絵を貼る、また男性が行う活動をひとつ選び、その横に女性の絵を貼る。続いて、男女の活動を交代するとそれぞれはその活動を行うことはできるか、もしもこれが可能であれば、なぜそのようにしないのか、と質問する。

普及員はここで、「従来からの男女の役割・活動を変えようとしているのではなく、必要ときに男女が互いに協力しあうこと、つまり家庭内の指導権などを失うことはなく、家庭のため・集落のためとなる良い結果を得ることを目指して、通常女性が行う仕事をときどき男性が引き受けること（またはその逆）、男女が役割を分担すること」を勧めているだけであることを説明する。



ステップ5

考察を終わるため、最後に、ブレインストーミング方式を用いて、参加者に次の質問する。「女性の参加、そして集落の女性リーダーの育成をどのように促進すべきか。」答えは、模造紙に書き込む。答えと次の枠の中の内容を基に考察を行う。

参考....

・女性の参加はなぜ重要か

女性は生産・保健・子供の教育などの重要性を男性より知っている。
出稼ぎなどで男性が不在の時、女性は家庭だけではなく農家組合に関する責任を負う。

女性が研修を受けることは、家庭のため、集落のためとなる。

大衆参加法の第8条は、「開発基礎組織（集落組織）は責任を持って、男女平等に役員になれることを促進すること」と示している。

・女性の参加を向上し改善するためには何をすればよいか

集落活動（特に総会）やその他の活動の中で、女性に敬意を持って扱うこと。

家庭内における女性の仕事量を減らすために男性が協力することからはじめ、組織内における女性リーダーの奨励を支援すること。

集落組織や集落を代表する女性を、男女ともに応援すること。（例えば、彼女らを言葉で励まし、敬意を示し、間違ったときは愚弄しないことなど）



次に、考察した内容を補足するため、ステップ1（自己紹介）の際に受け取った「半分の絵」および次に示す質問についてよく考えることを求める。

半分の絵だけだとどんな感じがするか。

足りない半分の絵と一緒にすると、絵は良くなるか悪くなるか。

最後に、普及員は参加者に次のメッセージを伝える。

☞ メッセージ

「半分の絵」と同じように、男と女では多くの違いがある。しかし、互いにうまく協力、補足しあい、それぞれが研修を受けられるための時間、発展するための時間を作り、集落の発展に貢献することが大切である。

ステップ6

ブレインストーミング方式を用いて、参加者がWSの長所・短所を挙げ、WSを評価する。



実証調査の事例...

カイナカス集落では、男女が行う活動に関する女性の自覚と男性の自覚はほぼ同じであった。これは、男女とも各種活動にかかる時間を把握しており、認めていることを意味する。また、グループワークで作成したリストの結果によると、各種活動のほとんどは、男女が一緒に行っていることが明らかにされた。だが、家庭外の活動（特に女性グループ）に参加するため女性が持つ制約については、考察の結果、彼女らが興味を示さないことが主な原因であることが明らかになった。

一方、女性の参加を高めるために集落組織のリーダーは何をしているかに関しては、一度も検討したことがなかったそうだが、女性が集落の意志決定にほとんど何も貢献しないため、集落の総会にはもう参加させないことを決めたそうであった。本WSの考察により農民リーダー達は、集落組織レベルでもこのテーマについて深く考えることを約束した。

《農家の声》

- ・「最初の頃、グループ員何人かの夫達はグループの集会に行かせてくれなかった。だが、今は我々の活動の結果を見て、これが家庭のためになっていることを見て、集会に行かせてくれるようになった。」（カイナカス集落）

.....

- ・「実証調査がこの集落で活動を始めて以来、男性は、女性も何かの技術を身につけなければならぬと思うようになった。それで今は、グループの集会に参加するように、研修で身につけたことを練習し続けるように協力してくれる。」（トモロコ集落）

.....

3.4 WS4：集落の自然資源に関する図の作成

このテーマは、「保全意識の醸成」の段階ですでに進めたテーマであるが、女性に自然資源管理に関する責任を感じさせるため、女性グループを対象にもう一度繰り返す必要がある。

「集落の自然資源に関する図の作成」に関する WS の目的

自然資源の現状について考察し、解決策の案を提案すること

自然資源の適切な管理をベースに、より良い将来のシミュレーションを行うこと

「集落の自然資源に関する地図の作成」に関する WS に期待する目的

女性は、「mapa parlante」（読み書きができない農家が説明をするために使用した、模造紙に絵と最少の文字を用いた技法である。）を作成し、これにより自然資源の現状について考察する。これを基に、理想の集落を描く。

自然資源の適切な管理を通じて、よりよい将来を達成する可能性に関する参加者の意識と自信が高まる。

表 10 自然資源の地図作成に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	100～120 分	自然資源の現状 自然資源の将来に向けて新たなビジョンをつくる	「Mapa Parlante」技法を用いたグループワーク (模造紙・色のサインペン)
ステップ 2	10～15 分	WS の評価	ブレーストーミング方式
合計所要時間：110～135 分程度			

ステップ 1

参加者全員を 2 つのグループに分け、ひとつは、自然資源を含む現在の集落の絵を描き、もうひとつでは、自然資源の適切な管理を含んだ理想の集落に関する絵を描く。

このグループワークには 1 時間 30 分程度要する。絵が完成すれば、各グループは全員に絵を紹介し、内容について説明する。2 つのグループの絵の紹介が終われば、普及員は、次に示す質問を基に、ふたつの状況について考察を進める。

- ・ どちらの絵が好きか。それは何故か。
- ・ 現在の集落の絵で表されている状況の原因は何か。
- ・ 理想の集落を達成するため、女性として何をすべきか、何ができるか。

ステップ 2

最後に、ブレーストーミング方式を用い、次に示すような質問を基に、WS の評価を行う。

絵を描くことは気に入ったか。
 絵を描く際、どんな問題があったか。
 この WS では何を学んだか。

実証調査の事例....

カイナカス集落の女性が集落の将来に関して描いた「mapa parlante」では、集落レベルの植林事業のビジョンが目立った。女性のこの考えは、集落 WS を行ったときの、男性の考えと一致していた。



参考....

女性はこのようなワークには慣れていないため、疲れが早く、細かい内容を見直し、全員と議論するときには表面的な内容だけに触れることがよく起こる。このため、時間が許す限り、より深い考察ができるため、次回の集会にて、絵を完成させるとよい。



3.5 WS5：植生から受ける便益

この WS は、植生資源が利用者に便益を与え続けられるように、適切な管理につながる対策を考察することを目指している。

「植生から受ける便益」に関する WS の目的

植生資源から受ける便益およびその現状について女性の観点から考察すること。
 植生資源を適切に管理するための対策および消費者が受け入れるべき責任について考察すること。

「植生から受ける便益」に関する WS に期待される成果

植生資源の現状とその消費者の発言がないことについて、参加者の意識が高まる。
 植生資源の適切な管理につながるいくつかの対策が参加者によって提案される。

表 1 1 植生から受ける便益に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	50 ~ 60 分	植生から受ける便益	グループワーク 全員との議論
ステップ 2	30 分	集落における植生の保護対策 植生の適切な管理の直接責任者の明確化	ブレインストーミング方式
合計所要時間：80 ~ 90 分程度			

ステップ1

普及員は、大きさの違いにより植生が樹木、灌木、草、牧草、の4つのグループに分かれていることを説明する。それぞれから受ける便益について考察するため、参加者を4つのグループに分ける。

前述の4つの植生グループの中から、各グループにひとつづつテーマとして与え、そのグループに関する最も重要な植物を5～7つ、用途が高いか・消滅の危険があるかなどを考慮し、リストアップする。例えば、「樹木」グループは、集落内に存在する用途が高く、消滅の危険が高い、最も重要な樹木のリストをつくる。

各グループのリストが完成すれば、次に、それぞれの植物から受ける便益（人間だけでなく、土壌や家畜が受ける便益）を説明する。

そして最後に、男女のどちらがこれらの植物を最も利用するかを示す。

グループワークのために、普及員は各グループに、次のような様式を渡すと便利である。

〔様式例〕

植物名	用途（便益）	最も多く利用する者	
		男性	女性

各グループがワークが終われば、全員に結果を紹介する。

参考....

グループワークの結果をより楽しく紹介するため、参加者は、集落内で最も重要と思う植物のサンプルをいっしょに紹介するとよい。



ステップ2

普及員は、植生資源の現状（植生の減少・消滅）に対する姿勢について考察するよう参加者を誘導する。植生資源から便益を受けることに対して「お返しをする」ため、行うべきことをいくつか提案する。これには、次に示す質問を用いると良い。

植生グループ	・植生を保全するため現在どんな対策を行っているか。 ・植生を保全する理由は何か。	今後、どのような対策に取り組むことができるか。
樹木		
灌木		
草		
牧草		

参考....

「植生資源を保全するため現在何もしていない」といわれた場合、普及員は参加者に次の質問を投げかける。

- ・ 植生資源を保全するため何もしていないのは何故か。
- ・ 植生資源は年々少なくなっていることに気付いているか。
- ・ 植生資源から受ける便益を、我々だけではなく子孫が受け続けられるようため何らかの対策に取り組む責任は誰にあるか。



WSを終了するため、普及員は参加者に次のメッセージを伝える。

メッセージ：

植物は、小さくても大きくても、何かの用途がある。植物がなければ人間は生活できない。だが、我々のほとんどは植生資源を保全するため何もしていない。植生資源保全のため我々が何かをしなければ、誰がするのだろうか。植物がなくなれば、土壌は侵食し、やがて土壌もなくなる。水が浸透するための植物がなくなれば、水源地の水量も減っていく。これらの資源がすべてなくなれば、我々の生活はどうなることだろうか。

実証調査の事例....



パタリャフタ集落では、樹木類は建設用木材を生産するため、灌木類は薪のため、草および牧草は家畜の飼料のために使われていることが明らかになった。参加者によると、植生資源は男女両方がほぼ同じ程度使用しているが、現地名「Lima-lima」(学名「*Aspidosperma pyrifolium*」)などの樹種は、建設用木材・プラウや耕起用道具の製造のために、男性が最も多く使用している。

実証調査の事例....



参加者によると、植生資源の増加と管理に関する知識不足が原因で、彼女達は、これに関する対策は何も取り組んでいないそうだが、植生の重要性を理解したため、今後は植林を始めることを約束した。

3.6 WS6：植林とその問題点

植生資源に関する WS5 において参加者は、その資源を適切に管理するための第一歩として、自然回復や植林を通じて、植生資源の増加を提案した。だが、実際に植林を始めようとしたとき、これをやらないためのいいわけや問題が必ず生じる。したがって、この WS では、植林を行うための問題点や制約について参加者と考察し、解決策を提案する。

植林とその問題点に関する WS の目的

集落において植林事業を始める際の制約を明らかにし、これについて考察すること。

集落において植林事業を始めるための制約に対する解決策、また集落において植林が成功するための対策を提案するよう参加者を動機付けること。

植林とその問題点に関する WS に期待される成果

植林を進めるにあたり、課題を解決するための対策が参加者によって提案される。

参加者は、植栽地に被害を及ぼさないように、家畜管理を徹底していく。

表 1 2 植林とその問題点に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	10～15 分	テーマへの入門	ブレインストーミング方式
ステップ 2	40～50 分	植林事業に関する問題点	グループワーク・全員との議論
ステップ 3	20～30 分	植林事業に関する課題を解決するための対策の提案	ブレインストーミング方式
ステップ 4	10～15 分	WS の評価	ブレインストーミング方式
合計所要時間：80～110 分程度			

ステップ 1

参加者の家族で植林に興味を持っているものの存在を把握するため、普及員は参加者に対し、家族の中で植林に興味のあるものは誰かを質問する。ここで挙げられる参加者のコメントや答えを基に、普及員はこれから行う考察の方向を決める。

ステップ 2

植林に関する問題点を明確にするため、参加者を 5～8 人ずつのグループに分け、各グループで最低 5 つの問題を明確にする。グループワークの参考のため、普及員は次に示すような課題例を挙げる。

植林に関する問題点

- ・ 家畜による被害が多い
- ・ 土地面積が小さい
- ・ 植林に適していない土地（表土層が浅い土地、侵食地）が多い
- ・ 苗木の入手が困難である



このグループワークには 20～30 分程度用いる。グループワークが終われば、グループで代表者を一人選び、その人を中心に全員に結果を紹介する。

ステップ3

グループワークの結果の紹介が終われば、普及員は、重複する問題がないように気を付け、すべてのグループの結果をひとつのリストにまとめる。次に、このリストを基に、挙げられた主な課題に対する解決策を提案するよう参加者に促す。参加者は解決策を提案した後、これらを取り組むことを約束しなければならない。

実証調査の事例....

タラワンカ集落の女性グループは次に示す2つの問題点を挙げた。

1) 植林を指導する人がいないことと、植林に関する基本的な知識がないこと (例えば、各樹種に適した場所、苗木の理想的な大きさなど)

在来種による自然回復を図るため、これまで数名の農家が自ら植林にチャレンジしたことがあるがほとんど成功しなかった。

これらの問題に対する解決策として、「苗木の生産から植林方法までを含んだ農家の技術指導を行うこと」が提案された。

2) 家畜による被害

農作物の種まきと収穫作業が終われば、農家の家畜は放し飼いになり、集落の中を自由に放牧し、食べられるものはすべて食べてしまう。これに対して参加者は、「家畜が木を植えたところに入らないため、石や棘のある植物を用いて、苗木1本1本に保護柵をつくること」を提案した。(提案に不満だった者も数名見られた。)



3.7 WS7：土壌保全

女性は、土地の利用と密接な関係を持つ生産者であるので、女性も、土壌侵食問題に対応するため各種の水土保持対策の重要性を把握する方がよいと考えている。

「土壌保全」に関するWSの目的

参加者に、土壌侵食をコントロールする水土保持対策の重要性を理解させること。
女性も水土保持対策コンクールに積極的に参加するよう動機付けること。

「土壌保全」に関するWSに期待される成果

各種保全対策について技術指導を受けた参加者が得られる。
土壌保全の重要性に関する参加者の意識が高まる。

表13 土壌保全に関するWSの内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ1	15~20分	土壌の重要性と土壌侵食に対する入門	口頭での説明
ステップ2	50~60分	主な土壌保全対策	個人ワーク、絵描き
ステップ3	20~30分	説明の復習	
合計所要時間：85~110分程度			

ステップ1

土壌資源の重要性とその主要な課題である土壌侵食現象を強調し、これまで行ったWSの内容、特に「自然資源の現状」(3.2を参照)で進めた内容を復習する。普及員はここで、土壌侵食の原因とその影響、そして水食を起こす雨水の流亡を減少させるための対策について指導する。

ステップ2

参加者が知っている、または各自の農地においてすでに取り組んでいる主な水土保持対策について考察するため、一人一人に用紙とサインペンを渡し、その絵を描かせる。この個人ワークには30~40分程度要する。絵を完成させた後に、各参加者は全員に自分が描いた絵と、その中の水土保持対策の重要性について説明する。



写真 3.7.1 土壌保全に関する WS

各参加者が絵の紹介を終わった都度、普及員は絵を回収し、全員が見られるところに貼る。これはその後、復習を行う際にもう一度利用する。

ステップ3

全員の絵の紹介と説明が終われば、普及員は水土保持対策の重要性、特にこれらのメリットについて参加者と復習を行う。参加者が描いた保全対策の種類が少なかった場合、普及員は違った種類の土壌侵食防止対策を紹介する。そのために、事前に準備した保全対策の絵を用いると便利である。

実証調査の事例....

カイナカス集落の場合、本 WS は、水土保持対策コンクールの後に行った。このため、女性グループの27人のメンバーはそれぞれの農地で取り組んだ水土保持対策の絵を描いたが、一人だけコンクールに参加しなかった人がいた。コンクールに参加した女性は、水土保持対策に取り組むようにとこの人を励ました。



参加者の絵の紹介を終わった後、各水土保持対策の重要性をいつも思い出させるため、全員の絵を集会所の壁に貼っておいた。

参考....



保全リーダーの圃場でいくつかの保全対策を行った後に、この WS を行うと効果的である。水土保持対策コンクールを実施した後、またはコンクールと平行して本 WS を行うとなおさら効果的である。こうすれば、水土保持対策の重要性に関する参加者の意識が高まる。

《農家の声》

- ・「一番好きな対策は石積みである。石積みは土壌流亡をよく防ぐ。石積みを作ったところの土は他より湿っていることがはっきり分かる。そこに植えた瓜はよく育っている。」（カイナカス集落）
- ・「実証調査のコンサルタントといっしょに、私の圃場の上の方に浸透溝をつくった。以前までは、雨が降ると上から水が流れてきて、家の中にまで入ってきていた。浸透溝は大量の水でもあふれないように深く作ったため、その後、その問題はない。」（カイナカス集落）
- ・「活動の中で、土の流れを防ぐための対策を教わらなければ、我々の圃場の土は今でも流れ続けていたはずだ。このような対策を用いて土の流れを止めることは我々次第であることがよく分かった。」（カイナカス集落）

3.8 WS8：集落内の家畜の現状とその問題点

集落では一般的に、衛生・栄養・繁殖などに関する家畜（対象地域は特に羊と山羊）の問題は、すべての農家の悩み事である。だが、農家は通常、土壌や植生資源などの自然資源に対して家畜が及ぼす影響には気付かない。このため、本 WS は、家畜の問題点と自然資源に対して家畜が及ぼす影響について考察する。

「集落内の家畜の現状とその問題点」に関する WS の目的

集落における家畜の問題点と自然資源に対して家畜が及ぼす影響について考察する。

「集落内の家畜の現状とその問題点」に関する WS に期待される成果

自然資源に対する悪い影響を減少させるために家畜を適切に管理することの重要性について考察した参加者が得られる。

表 1 4 集落内の家畜の現状とその問題点に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	15～20 分	集落における最も重要な家畜について	ブレインストーミング
ステップ 2	30～40 分	家畜に関わる問題点およびその解決策	グループ作業、全員との議論
ステップ 3	20 分	自然資源に対して家畜が及ぼす影響について考察する	
ステップ 4	10 分	WS の評価	ブレインストーミング
合計所要時間：75～90 分程度			

ステップ1

ブレインストーミング方式を用いて、集落にいる家畜とその重要性を示すリストを作成する。作成したリストの中から、最も重要な家畜を3種類選択する。

ステップ2

各家畜に関わる問題点について考察するため、選択した家畜の数と同じ数のグループに参加者を分ける。各グループでは選択した家畜をひとつ選び、主な問題・その原因・解決策について考える。普及員は参加者に、いくつかの問題例を挙げる。例えば、飼料の不足、放牧地の不足、病虫害、飲み水の不足など。

グループ作業のために、次に示す様式を用いると便利である。

〔記入様式例〕

問題点	原因	解決策（何ができるか）

グループ作業には20～30分程度要する。その後、各グループは全員に結果を紹介し、内容について全員で議論する。

ステップ3

各グループが明確にした問題点とその原因を基に、普及員は次に示す質問を投げかけ、参加者が考察するように誘導する。

自然資源の劣化は、家畜の問題と大きく関係していると思うか。

家畜は自然資源の劣化と関係していると思うか。（yes か no の回答だけでなく、その理由もきちんと説明すること）

回答を基に、普及員は次のような結論を出す。

考察後の結論....

家畜に関する問題は、飼料と飲み水の品質および、その量が不十分であることにある。侵食し劣化した土壌では質の良い飼料を十分な量を生産することはできない。その結果、家畜の衛生状況に影響する。つまり、劣化した土壌は質の悪い飼料を生産するため、それを食べる家畜の品質が悪くなっている。

家畜の不適切な管理は自然資源の劣化に影響する。なぜなら、放し飼いの家畜は食べられるものすべてを食べてしまい、植物が回復するために必要な期間を与えないからである。地表に植物が植わっていなければ雨滴は地面に強く衝突し、土壌が流亡し水食が生じる。また、同じ原因で、地表を流れる水は地面に浸透することが困難になり、水源地上における水量の減少が生じる。



ステップ4

最後に、WS で進めた内容を基に、ブレーストーミング方式を用いて WS の評価を行う。

実証調査の事例....

タラワンカ集落では、複数の家畜に関わる問題が明確にされ、その中で最も重要なものが飼料の不足である。この問題の解決策として、雨季における飼料（大麦）の生産量を増やし、この季節に生える草を収穫し、乾季（冬季）のために蓄えておくことが提案された。



もうひとつ重要な問題は、高い気温、水・飼料不足により家畜の栄養管理が不適切であるため、特に乾季（6月から9月の間）において病気が発生することである。

《農家の声》

- ・「気温が高いため今は家畜の病気が多い。家畜（特に作業牛）は日中野外で寝たりする。これは家畜の健康に良くないと思う。」（タラワンカ集落）

.....

- ・「昔の人間はあまり病気せず長生きしていたが、今は老化が早い。原因は農産物の質が悪くなり、人間は十分な栄養がとれなくなったことである。この状況は家畜の場合も同じである。十分な飼料と水がなく、栄養不足でやせており、病気になりやすい。」（タラワンカ集落）

.....

第4章

第3段階：女性グループの強化

第1段階においては、主に女性グループを形成することのみを目的として、1に女性リーダーとして素質のある者を抽出し、2として彼女らを中心として他の女性を交えながら現況診断を行った。これらは、競争、ゲームを通じ、グループ交流の大切さを教えながら、また同時に、職能研修を通して具体的にグループとして事業へ取り組んでみる試行過程であった。

これらの研修の中では、自分たちが自然資源の中で生かされていることを認めたいえ、意見を言う訓練を重ねたことによって、自分たちの意思を他に表現し、活動していくことの重要性を認識した過程であった。

次に第2段階では、集中的な研修を実施することによって、自分たちが直面している男女差、自然資源、家畜・営農に関する問題点分析とその対策の検討を行うようにする課程でこれらふたつの過程を経ることによって女性活動の体制は、仮に作り上げることができると思料される

さてこの段階では、各種活動の実施を通じて、女性グループを強化することを検討した。普及員は特に、女性グループがうまく機能しているか、グループ内で計画した活動が遂行されているか、グループ員が責務を果たしているか、などについて指導と観察を行うことになるが、女性グループはまだ仮の段階であり、グループの結束度やリーダーの指導力発揮度に不十分な面が残っていると思われる。その補強を考慮して、次のふたつの活動を実施してきた。



写真 4.1.1 機械編みと洋裁研修

開発事業

ここで言う「**開発事業**」は具体的に、新たな職能研修（機械編みや織物など）を始めたり、女性グループ用の集会所建設や、女性の生活を良くするために必要なその他事業（ガイドブック5を参照）を行うことであり、これらは、これまで行ってきた活動より多くの資金投入を必要とする。

開発事業を実施する目的は、

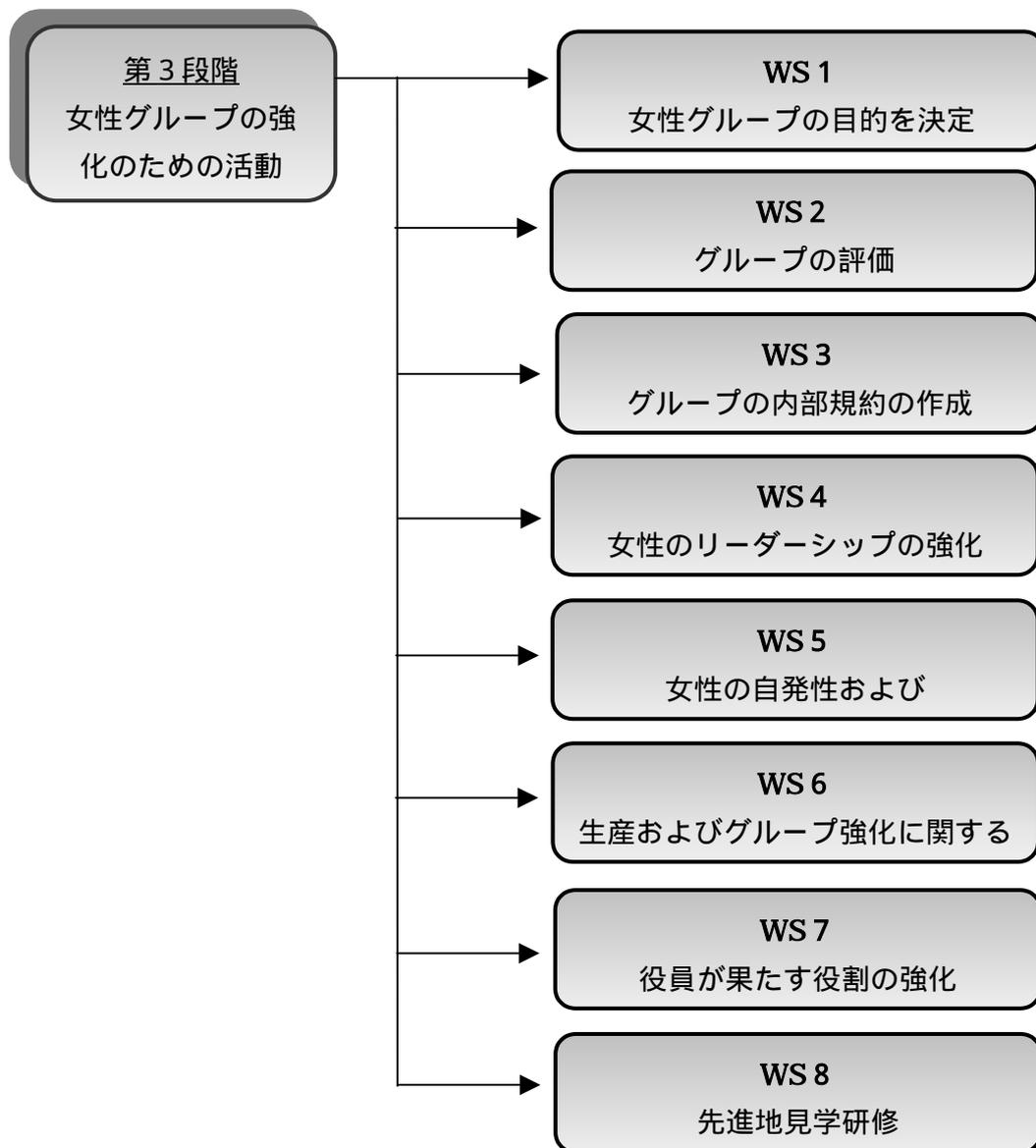
女性グループが十分強化されるまで、グループ活動に彼女らの参加を維持することである。したがって、ここで実施する事業（例えば、機械編み研修や野菜生産）は、参加者の収入増加と大きく関係している。

グループ強化のための活動

グループ強化のための活動とは、グループ員のリーダーシップ能力を高めることで強化するものである。

本段階で触れる活動は、グループ強化のための活動のみであり、これらを次の図にまとめる。

図7 第3段階におけるグループ強化のための活動



図に示している活動をいつ実施するかは、開発事業の実施と関連する。女性は開発事業の実施で忙しくなるため、これらの活動を進めるため十分な時間が割ける時を見て進める。これらの活動は1年半を掛けて行う活動であるため、2ヶ月にひとつ実施しなければならない。

これらの活動の実施に期待される成果は次に示すとおりである。

グループで作成した内部規約に従い、活動することによってより組織的なグループとなる。

女性は、自然資源に関係する活動に積極的に参加するようになる。

グループ員、特に役員はグループの強化に貢献する活動を進めるための主導権を取るようになる。例えば、グループ員の需要を基に他機関に支援を要請すること、グループ員が実施したい活動を明確にし、実施内容を計画する一連の活動（第1段階の過程）を維持する。

女性グループは集落組織（農家組合、各種委員会など）と積極的に連絡・調整するようになる。

役員の内任期内の活動計画が作成される。

4.1 WS1：女性グループの目的の決定

女性グループの設立直後には、多くの参加者は物珍しさから参加していたため、グループの目的や最終目標などが不明確なままであった。以前の段階では、女性グループを設立することに主眼が置かれていたが、ここでは女性グループの強化を図ることを目的としているので、彼女らの活動の方向性について明らかにしておく必要がある。

「女性グループの目的を決定する」ことの目的

グループを通じて求めていることに関する参加者の責任感を高めること。

グループの存在理由を理解すること。

「女性グループの目的を決定する」ことに期待すること

グループの目的や最終目標が参加者によって決定される。

表 1 5 女性グループの目的を決定することに関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	15 ~ 20 分	グループの目的や最終目標を決定することの重要性	
ステップ 2	50 ~ 60 分	グループの目的や最終目標の決定	グループ作業、全員との議論
ステップ 3	20 ~ 30 分	グループの目的や最終目標にグループ全員が合意する	
合計所要時間：85 ~ 110 分程度			

ステップ 1

グループ員がグループの目的や最終目標を決めることの重要性を理解するため、普及員は次の枠の内容を参考に、その重要性を強調した。

参考...



グループは現状維持のための活動ではなく、将来計画を持つことが必要である。グループが将来計画を持てば、グループ員は計画達成まで責任をもってがんばることができる。

グループ員がグループを通じて求めていること、例えば、開発機関の支援、新たな職能研修、集落内において良いリーダーになることなどは、ひとつの目標として見なければならない。そして、その目標を達成するための過程で生じる問題や障害を乗り越えるために必要な能力を高めなければならない。

グループ員が行っている活動は、家族のため・集落全体のためとなる貴重な活動であることをまずグループ員が認めなければならない。そうすれば、求めていること、実施すると決めたことを達成するため参加者がもっと努力するようになる。

ステップ 2

参加者を 2 つのグループに分け、ひとつはグループの目的、もうひとつはグループの最終目標を決定する。グループ作業は、次に示す質問を基に進める。

目的	最終目標
今グループはどうなっているか。 何のためにグループにいるか、何を求めているか。 何をしようとしているか。 どうすれば最終目標に達成できるか。	どこに達成したいか。 達成したいところまでたどり着くためには何をすべきか。 達成したいところまでたどり着くためには誰と調整しなければならないか。 達成したいところまでたどり着くためにはどれくらいの期間がかかるか。

グループ作業には 30 ~ 40 分程度要する。その後、各グループの代表者は、全員に結果を紹介し、内容について議論する。

ステップ3

最後に、普及員は、参加者が作成した内容を基に、グループの目的および最終目標に関する結論をまとめる。

実証調査の事例....

トモロコ集落の女性グループは次に示すグループの目的と最終目標を提案した。

グループでは、集落で活動する各種機関・集落リーダー・地域リーダーとうまく調整し、洋裁・編み物・衣類の販売・自給用および販売用の野菜生産などに関する研修を通じて、我々の家族の生活向上を支援すること、我々個人の能力を高めることができる。

そしてその目標は、グループ員全員が集落のリーダーたちになること、洋裁や編み物の指導者になれる程度のレベルを達成し、集落内外において、このような指導が必要とされるところで活躍することである。



4.2 WS2：グループの評価

女性グループを始めた頃の状態を考慮し、本段階では、女性グループがこれまで経験した問題や取得した成果について考察する必要がある。グループの評価には、参加者の積極的な参加により、グループについて考察し、グループ員の意識とグループに対する責任感を高める。

グループの評価は、グループ員全員が参加する WS にて行う。評価には、評価項目に関する参加者の考え・意見・知識を全員で把握する「私たちは何を知っているか」というゲームを用いる。（ゲーム用の表の見本と説明書は本ガイドブックの付属資料5に示している。）

評価すべき項目は、グループの活動、これまでの成果、グループの現状、自然資源に関して参加者が身につけた知識および意識改革、の2項目である。

4.3 WS3：グループの内部規約の作成

本段階では、ほとんどのグループ員はグループに残るかどうかははっきりしており、グループ化のメリットについて十分把握し納得しているため、女性グループの内部規約を作成することができる。グループの内部規約を作成する考えが、参加者自身から生まれた場合、グループ員は規約に定められた各種の責務を責任をもって受け入れる。

実証調査の事例....



ある集落では、女性グループの内部規約を最初の段階で作成することにした。数名の女性は、規約内の罰則や責務に合意せず、グループから脱会した。このことで、内部規約はずっと後に決めることにした。

実証調査の事例....



トモロコ集落の女性グループの内部規約は、グループを始めてから約1年後、具体的にはふたつ目の職能研修（機械編み）を始める前に作成した。

規約を作成する考えは女性自身から生まれた。その理由は、それまでグループの規約がなかったために、

- ・ 洋裁研修が終わった後、その後の約束事を守らなかった女性がいた
- ・ 研修に必要な資材（ミシンやアイロンなど）を購入するための負担金は払わないが、妻に研修を受けさせることを強く求める夫がいた

などの問題が生じたからである。このことで、女性は、グループ員全員が同じ権利と同じ責任を持つ、組織の規定を定める規約が必要であると思ったからである。

内部規約の作成にはグループ員全員が参加し、グループ作業を通じて規約の内容を提案する。グループ作業では、次に示す質問について考察し回答させる。

グループ1：

- ・ 何のために内部規約を作成するか。（これには、本段階のステップ1で決定したグループの目的と最終目標を考慮する）
- ・ グループ員になることを希望する者はどのような条件を満たさなければならないか。
- ・ グループの組織構造はどのようにするか。何人の役員とするか、各役員が果たす役割は何か。
- ・ 役員の任期は何年にするか。
- ・ グループ員の責務・権利は何か。
- ・ グループ集会の頻度と開催時間はいつにするか。

グループ2：

- ・ 集会に欠席、遅刻した場合どんな罰則を与えるか。
- ・ どのような場合、欠席を許すか。
- ・ どのような場合、グループ員を退会させるか。
- ・ いつ、どのような条件で、新しいグループ員の入会を許すか。
- ・ （グループ員の希望により）グループを解散するが場合、グループの財産をどう処理するか。

ふたつのグループの回答が終われば、全員に結果を紹介し、内容について議論する。結果を紹介する際、何か不足している点、または内容が明確でない点があれば、普及員は参加者にそれを補足するように促す。

そして最後に、普及員は内部規約の編集をサポートする。最終規約は次回の集会で、書記がグループの記録簿に記録し、その後、集落組織の会長（リーダー）に承認させる。本ガイドブックの付属資料6に内部規約の見本を示している。



写真 4.2.1 グループの細部規約の作成

参考....



規約内のいくつかの点でグループ員が合意しない場合、その内容を6ヶ月または1年間、実証すると良い。この間、グループ員はそれがどうか、まだ足りない点があるかどうかを実感し、必要であると思うようになれば、新しい役員が決まったときに規約を変更する。

グループ員全員が、内部規約の内容を短期間で理解するためには、全員がその内容を把握することが重要である。このため、そして問題を防ぐため、普及員または役員のメンバーは規約が守られているかを絶えずコントロールする一方、必要に応じて定例集会を利用し規約を見直す。

実証調査の事例....

実証調査の対象集落で作成した女性グループの最初の規約は、1年間有効であった。この間、グループ員は規約を多少変更する必要があると感じ、新しい役員が決まったときに、いくつかの点を変更した。



4.4 WS4：女性のリーダーシップの強化

女性グループでは通常、グループをリードする責任は誰も受け持とうとしない。リーダーはグループの成功または失敗の責任を持つため、失敗を恐れ、誰もリーダーになることを希望しない。

実証調査の事例....

実証調査がトモロコ集落の活動を始める数年前、集落には女性グループがあったそうだが、グループリーダーが亡くなり、その後誰もリーダー役を務めなくなかったため、グループがなくなった。



グループ員がグループをリードする能力を高め、その役目を果たすことができるようになるため、絶えず支援することが普及員の重要な役割のひとつである。

「女性のリーダーシップの強化」に関する WS の目的

グループ員がリーダーシップ能力を高めることの重要性について考察すること。
女性グループを指導するリーダーが持つべき資質およびグループを強化するため他のグループ員が持つべき資質を明確にすること。

「女性のリーダーシップの強化」に関する WS に期待すること

グループの安定を維持するため各自のリーダーシップ能力を高めることが必要であることについて考察した参加者が得られる。
グループを指導するために必要な資質と姿勢を持ったリーダーのプロフィール案が参加者によって作成される。

表 1 6 女性のリーダーシップの強化に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	15～20 分	「リーダーとは何か、リーダーの重要性」について	
ステップ 2	30～40 分	各種リーダーの分析、グループ員の模範的な姿勢	絵の利用*
ステップ 3	30～40 分	リーダーシップを高めるための女性の長短所の明確化	グループ作業、全員との議論
ステップ 4	20 分	WS のまとめと結論	
合計所要時間：95～120 分程度			

*ここで利用する絵は、「保全意識の醸成」に関するガイドブックに示している「リーダーシップに関する WS」で用いる同じ絵である。

ステップ 1

「リーダー」の意味を明確にするため、ブレインストーミング方式を用いて、参加者は次に示す質問に答えなければならない。

リーダーとは何か。

組織内にリーダーはいるか。

誰がリーダーか、リーダーはどんな人か。

参加者の意見と次の枠の中に示す内容を考慮し、普及員は「リーダー」の意味を説明する。

参考....

リーダー：グループを指導し、その長である人のこと
リーダーシップ：何かの目的を達成するため人に影響を及ぼす能力のこと
つまり、リーダーとは、グループメンバーを自発的に参加させる能力、グループを指導する性格・能力を持つ人のことである。



ステップ2

各リーダーとそれぞれの特徴、そしてグループ員に求められる姿勢について考察するため、普及員は2、3名で構成するグループ員に、ガイドブック2の付属資料1に示している絵を配る。参加者は、絵の内容と、グループ員およびリーダーの姿勢との関係について考察する。考察には5~10分程度要する。その後、各参加者は与えられた絵の意味を全員に説明しなければならない。

参加者が絵の内容を説明していく都度、普及員は、全員の見えるところ（壁など）に、各リーダー別、グループ員の姿勢ごとに絵を並べて貼る。

全員の説明が終われば、普及員は各絵の本当の意味とそのメッセージを説明する。この説明を基に、参加者はもう一度考察する。

ステップ3

リーダーシップ能力を高めることの重要性について参加者が議論・考察するため、普及員は参加者を2つのグループに分け、次のようなグループ作業を進める。

グループ1	グループ2
<ul style="list-style-type: none">・ 集落には女性リーダーはいるか。グループには女性リーダーはいるか。その人たちはどんな人たちか。・ 我々のグループを指導するリーダーはどんな人でなければならないか。・ 誰がリーダーになれるか。それはなぜか。	<ul style="list-style-type: none">・ リーダーになるため、我々はどんな障害を乗り越えなければならないか。・ グループ内においてグループ員の姿勢はどうか。・ 我々の組織がしっかりしたまま維持するため、グループ員の姿勢はどうあるべきか。

このグループ作業には20~30分程度要する。その後、各グループは全員に結果を紹介し、内容について議論する。

ステップ4

WSを終了するため、各参加者のリーダーシップ能力を高めことの重要性を強調し、結論を出すため、普及員は次のことを説明する。

実証調査の事例....



トモロコ集落では、本 WS の効果は非常に高く参加者からの受け入れもよかった。WS の結果、参加者ひとりひとりの著しい意識改革が見られた。これは、特に参加者が各々の責務を責任もって果たすようになったことを反映した。それは、例えば、WS 中にあるグループ員の姿勢が怠慢であった場合、WS の後に、他のグループ員はその人に本 WS の絵のことを思い出させ、姿勢を変える説得した。

なぜリーダーシップ能力を高める必要があるか....

発展することを希望するのであれば、女性が希望すること・必要なことについて一番よく知っているのは女性自身であるため、これらの必要物・需要を満たすための対策は女性が生み出さなければならない。このため、女性一人一人の能力を高め、その能力を問題の解決、地域の現状に適した事業の計画、必要な資金の要請などに用いることが必要である。



「開発プロジェクトの援助がなくなれば、プロジェクトの人はいなくなり、すべてが終わる。その結果、多くの集落は援助を受けることと、自分たちは何もせず新しいプロジェクトが何かをしてくれることをただ待つだけに慣れてしまった。

今は、援助に反対し、責任を持って農民自信が主導権をとり発展するという気持ちを農民に持たせる農民リーダーが必要である。」(2000年 オランダ協力 リーダーシップに関するWS「将来に挑戦して」)

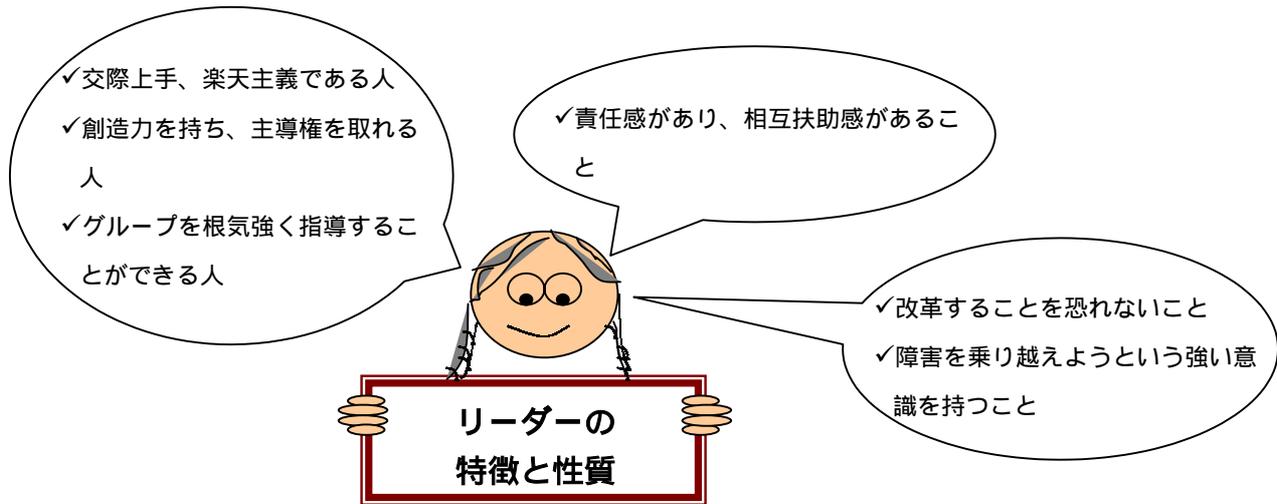
《農家の声》

・「ときどき我々はよく考えないでものを言うことがある。何の努力もせず、タダでものを求めることをする。」(トモロコ集落)

.....
・「私たちのほとんどは、待つことが嫌い。何を求め、それがすぐにできなければ、すぐにあきらめることが多い。それが原因で、数名の女性がグループをやめていった。その人たちは今グループに戻ることを希望している。だが、今はグループに入るためにはお金がかかる。(トモロコ集落)

.....

4.5 WS5：女性の自発性と創造力の強化



自分たちが自発的でなく創造力のないグループは、なかなか変身することができない。言い換えれば、自分たちの必要物を満足させる協力プロジェクト等による便益を待つ以外には、変革のきっかけをつかめずにいるグループである。ただ待つだけではグループの機能が麻痺してしまうので、自分たちにとって必要な物を基に、独自で提案した何かの活動を常に行うように、グループ員が自発性と創造力を高めることが重要である。

女性が希望することは実現することはないと考え、または失敗することが怖いために、女性は自分たちで何かを始めることが難しい。この段階では、ほとんどのグループ員はまだ、協力プロジェクトなど、外部の支援がなければ自分たちだけでは何もできないと思っている。女性および女性グループによく見られるこのような性質に変化を与えるため、われわれは他同様 WS 形式による研修を重ねてきた。

「女性の自発性および創造力の強化」に関する WS の目的

目的達成のため重要な条件である、グループ員の自発性および創造力を高めることの必要性・重要性について考察すること。

「女性の自発性および創造力の強化」に関する WS に期待すること

グループ員の自発性および創造力を高めることの必要性・重要性について考察した参加者が得られる。

自発性および創造力を高めるようにグループ員は動機付けられ、責任感が高まる。

表 1 7 女性の自発性および創造力の強化に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	15 ~ 20 分	主導権および創造力の定義	
ステップ 2	40 ~ 50 分	主導権を取ることとは 創造力を高めることとは	グループ作業 全員との議論
ステップ 3	20 ~ 30 分	主導権を取ること、創造力を高めることの重要性について考察する	
ステップ 4	10 ~ 15 分	参加者は、提案した計画をひとつ実現することを約束する	
合計所要時間：100 ~ 115 分程度			

ステップ 1

最初に、参加者が主導権と創造力の意味を把握する必要がある。そのため、次の枠の中の内容を基に、普及員はその意味を説明する。

説明のための参考内容	
<p>自発性とは 誰からも求められず、率先して行動し、物事（話や行動）をある方向に導く能力のこと。 例：誰からも求められず、グループ員はグループの内部規約を作成する。野菜畑を設置する自発性を取った。</p>	
<p>創造力とは 新しいもの・独創的なもの・従来と異なったものを造る能力のこと。 例、独自のデザインの洋服を作ること。</p>	

ステップ 2

自発性と創造力の重要性をよく理解するために、参加者を 8 ~ 10 名ずつのグループに分ける。各グループに Bs300 ~ 500 程度のおもちゃのお札を配り、次のことを指示する。「各グループが受け取ったお金は、2 年間、利息なしで借りたお金である。このお金をどのように使うか。何にどう投資するか。投資せずしまっておくか。それはなぜか。」

参加者は受け取ったお金をどのように使うかについてグループ作業を行う。これには 1 時間程度要する。その後、グループ代表者は、グループ内で挙げられた自発性を全員に発表する。

ステップ 3

参加者の発表内容を基に、普及員は、グループの安定を確保するため各グループ員の自発性および創造力が重要であることを強調する。グループ作業で挙げた提案・意見・考え・投資方法を参考にし、次に示す内容を用いて、普及員は自発性と創造力の重要性についてまとめる。

実証調査の事例....

グループ活動を通じて、グループ員が収入を発生させる知識をどのように活用できるかについて考えさせるため、グループ員に色紙・はさみ・のりを渡した。色紙は生地であることにした。これらの材料を使って、グループ、そして自分たちのためとなるもの何かを作ることにした。

グループ員はチームで洋服を作ることにした。一人は生地を切る役、もう一人は生地を貼る(縫う)役、洋裁研修に参加しなかった人はボタンや飾り物を付ける役で、全員が洋服づくりに参加した。

数ヶ月後、グループ員は、販売用の洋服を作りはじめ、本 WS の自発性を実現させた。WSで行ったように、洋服づくりは分業方式で行った。洋裁ができないグループ員には基本的なことを教え、一人も仲間外れにできなかった。グループ員を小さいグループに分け、それぞれのグループの役割を決め、全員で決めた洋服を作った。このように、グループ員のための収入を発生することができた。

ステップ4

WS を終了する前に、普及員は、参加者が発言した自発性のひとつを実現しようと提案することが重要である。参加者はここで、普及員といっしょに、今後どの活動を実現したいかを決める。

考察のための内容

通常女性は、自信がないため、自分の考えや意見はあまり役に立たないと思う。このため、希望すること・やりたいことを実行に移すことはない。この状況はグループ員の場合も同様である。特に、過去に女性グループで失敗した経験がある場合、女性は失敗のことを思い出し、新しくやり直すこと、新しいことを始めることを恐れる。これらの女性の多くは消極的となり、自分では考えず、誰かが代わりに考えてくれるのを待つ。自己改革やグループの発展に対しては興味を示さず、創造力を用い、自発性を取ることができず、他人が提案した考えに従うことだけに慣れている。



4.6 WS6：生産およびグループ強化に関する活動の明確化

グループに入るための動機となった、女性が一番希望していた活動（例えば、洋裁研修）を実現した後、何も新しい活動がなければ、何名かはグループを出ていくことは普通である。グループ員が積極的に参加し続けることを動機付けることを目指し、グループのため、そしてグループ員のために収入を発生する活動を明確にする2回目のWS（1回目は第1段階にて行った）を実施することが重要である。生産の活動を明確化することは、第1段階で基本的需要を明確にした後に行う。生産の活動の明確化は、グループ員全員の参加を得たWSにて行う。

「生産およびグループ強化に関する活動の明確化」に関するWSの目的
新たな生産活動を明確にするために参加者の創造力を高めること。

各グループ員のためとなる成果を得るためにはグループを維持することが必要であることを参加者に理解させること。

「生産およびグループ強化に関する活動の明確化」に関する WS に期待される成果

生産活動およびグループ強化のための活動が明確され、実行の優先順位が決められる。

グループ員が同じ活動に飽きてきた場合、全員で新たな生産活動を明確にすることがグループのひとつの決まりとされる。

表 1 8 生産およびグループ強化に関する活動の明確化に関する WS の内容

ステップ	所要時間	テーマ	用いる技法および必要なもの
ステップ 1	50～60分	新たな生産活動の明確化	グループ作業 全員との議論
ステップ 2	30～40分	明確にした活動の優先順位決定 優先した活動を実行するための責任者の決定 (決議や約束事)	ブレインストーミング
合計必要時間：80～100分程度			

ステップ 1

新たな生産活動を明確にするため、参加者を3～5人ずつのグループに分ける。各グループでグループの維持と、生産によりグループ員の生活をよくすることに貢献すると思う活動を提案しリストを作る。各グループで提案する活動は、短中期(2～4年間)において実行する活動とした。また、グループが各種活動を提案する際、その実施方法についても考える。グループ作業が終われば全員に結果を発表する場を持つ。

ステップ 2

グループ作業の結果発表が終われば、普及員はすべての活動をひとつのリストにまとめる。このリストを基に、活動の優先順位を決め、実行方法を提案する。活動の実施責任者、または資金要請責任者なども決める。

次に、カイナカス集落で優先された活動は下表のとおりである。

表 18.1 収入向上に関してリストアップされた生産活動の内容

活動内容	事前活動・条件活動	優先順位	実行責任者
グループ員を増やすこと（グループに入会するよう、集落全体の女性を招待する）	集落の定例総会を通じて、集落全体の女性を招待する。	1	女性グループの役員
グループ員同士が一致すること、全員が規格を守ることに努力すること		1	女性グループの役員および一般グループ員
グループ員および集落全体の女性を対象にしたセミナーの開催	郡・県の農家組合連合会にて役員を務めている女性を講演者として招待する。	2	女性グループの役員
植物を使用して毛糸を染める方法に関する研修		2	テーマに関する知識のある女性
ショール編み、帽子づくり、サンダルづくりの研修	集落組織と調整し、開発機関に案件の要請を行う。	3	女性グループの役員
苗木生産研修	集落の苗木生産農家に指導を依頼する。	4	興味ある女性および実証調査
薬草を使った治療法に関する研修	集落組織と調整し、開発機関に案件の要請を行う。	5	女性グループの役員
集落の伝統的な農産物を使用した料理づくり研修、野菜料理研修	グループレベル・家庭レベルで野菜を生産する。	6	女性グループの役員および一般グループ員
家庭用の花作りの研修	グループ菜園にて練習する	7	興味ある女性および実証調査

4.7 WS7：役員が果たす役割の強化

女性グループの役員の最も不得手とすることは、定例集会の記録を取る書記の役割およびグループの資金を管理する会計係の役割である。このため、第1段階で行った「役員の役割」に関するWSをここでもう一度繰り返す必要がある。(2.3.4を参照)

記録の取り方と資金の管理に関する訓練を行うために、WSには役員の他に読み書きできる数名の女性を招待する。本WSの詳細については2.3.4を参照する。

実証調査の事例....

トモロコ集落では、役員のメンバーが新しく代わる都度、役員は任期内の活動計画を立てることが必要であると提案された。つまり、活動計画は、新しい役員が任期中に実行したい活動および実行しなければならない活動に関わる計画である。

役員はこの提案に賛成し、細かい実行スケジュールを含み、グループのためになる活動計画書を作成した。

活動計画によると、女性は1年中多数の活動を実行することになっていたため、全員の励みとなった。



4.8 WS8：先進地見学

女性グループを確実に強化し、グループ員の生活を向上させるためには、女性組織の活動が成功している他地域を訪問する先進地見学研修または交換研修を行うことが重要である。これらの研修において、グループ員は、生産（職能研修）および自然資源管理（野菜畑、薬草を使用した治療法など）に関する違った活動について学習することができる。

第5章

結論

多くの女性は自己改善したいという気持ちを持たず、共通目的を達成するためグループで活動することに慣れていないことから、開発のビジョンを持つ女性グループを育成することは困難なことである。しかし、女性独自の必要物に応えることに努力し、グループ育成過程に十分気を付けていけば不可能なことではない。

女性が集落レベルの意志決定に参加し、持続的開発に関する意識を持つようになるためには、本ガイドブックに示している指導方法を通じ、女性を育成することが必要不可欠である。女性を指導し、意識を改革するために最も適した環境は、同じ弱み・強み・不安・将来に対する希望を持つ女性同士で構成したグループである。

女性グループは、グループ員のためとそれらの家庭のためとなる活動を実現する場だけでなく、集落レベルの意志決定に関して積極的に参加できるよう女性を訓練・指導する学校であると考えてもよい。

技術指導を受け、情報を持つ女性は、自然資源の適切な管理を基に、自分の生活を向上させ、集落の持続的開発に貢献することができる。

- 以上 -

手法ガイドブック 4 付属資料

「女性グループの形成」手法

目 次

付属資料

- 1．女性を対象としたコンクールの実施
- 2．布絵活動のサンプル絵
- 3．総合的グループ事業計画書
- 4．グループ設立の記録様式・定例集会の記録様式の見本
- 5．グループ評価のためのゲーム
- 6．女性グループの内部規約

付属資料 1

女性を対象にしたコンクールの実施

女性がコンクールに関する情報を得るため、簡単な資料を作成する。その内容は女性グループの集会及び集落組織の定例総会で読み上げる。資料には次に示す内容を含む。

「コンクールに参加できる人」について

コンクールに参加することを希望する女性全員が参加できる。ただし、コンクールはグループ単位で行うため、何人かのグループを作ること。

プロジェクトにおける事例

カイナカス、タラワンカ、パタリヤハフタ集落それぞれで実施したコンクールでは、参加者は最低2名、最大5名のグループを作った。シリチャカ集落で実施した運動競技では、参加者は2チーム作った。



コンクールの内容について

コンクールの内容は実施したいコンクールの種類によって異なる。



プロジェクトにおける事例

トモロコ集落では、参加者の希望に基づき、運動競技のコンクールを2回行った。一方、カイナカス集落では、現地料理とお菓子づくり、シリチャカ集落では現地料理と運動競技、2種類ずつのコンクールを実施した。



コンクール開催場所について

実施するコンクールの内容に適した場所を選び決定する。

プロジェクトにおける事例

カイナカスでは、集会所または利用できる建物がなかったため、現地料理とお菓子づくりの2つのコンクールは、少し陰があるところを選んで外（教会の近く）で開催した。授業がなければ小学校の教室を利用することができたが、残念ながら授業中であり、児童に迷惑をかけたくなかった。タラワンカ及びパタリヤハフタ集落では、集会所及び女性グループの集会を利用した。トモロコ集落の運動競技コンクールは、小学校の運動場を利用した。



コンクールの審査

コンクールを審査する場合、技術員は事前に審査基準を決めておく。例として、現地料理コンクールに用いた審査基準を紹介する。技術員の他に、集落リーダー・小学校の先生・診療所の関係者などに審査員をお願いするとよい。

数	25点
味	25点
見栄え及び料理に関する説明	25点
グループの組織程度(調整・時間厳守など)	25点
合計	100点

表彰

コンクールの審査が終わった後、表彰を行う。成績がよかったグループを表彰することはもちろんであるが、その他に、参加した全てのグループも表彰することが大切である。

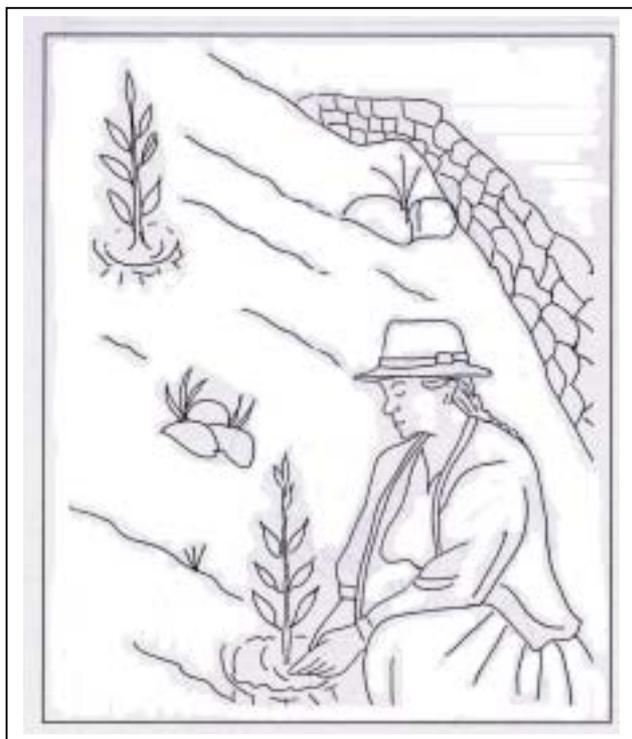
賞品の内容は、コンクール主催機関の予算によるが、参加者（女性）にとって魅力ある賞品にすることを勧める。例えば、台所用品（食器、バケツ、ボールなど）、生地、苗木など。

お勧め

布絵活動の前に実施するコンクールでは賞品を布にすると都合がよい。なぜなら、「布を入手できないから活動に参加できない」ことにならないからである。



付属資料2 布絵活動の絵の例



絵1



絵2



絵3



絵4

付属資料 3 総合的グループ事業計画書（洋裁研修の例）

（1ページ目）

グループ事業名	： 洋裁研修
対象集落名	： トモロコ
集落地域名	： タピラニ
対象農家戸数	： 17戸

<p>具体的な目的 参加者が、子供用・大人用の洋服を作れるようになるため、洋裁に関する技術研修を実施すること。</p> <p>事業内容の説明 トモロコ集落タピラニ地域において、2ヶ月間の洋裁研修を実施する。研修対象者は2つのグループに分かれ、1日おきに交代で研修を受ける。研修のために、JALDA プロジェクトは、指導者の雇用の他、ミシンや必要な資材の購入経費の9割を負担することとする。残りの1割は受益者グループが負担することとする。研修のために購入する資機材は女性グループ（役員会）が責任持って管理することとする。洋裁研修の条件事業として、各受益者は各自の敷地内に50本の苗木を植えることとする（ユーカーリ、レタマ、マツ）。</p>
--

<p>指導者指名：ウバルディナ・モスコソさん 研修開始日：2001年8月6日 研修期間：2ヶ月間 事業にかかる総経費（推定額）</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 10px auto; text-align: center;">Bs. = 9,566</div> <p>JALDA プロジェクト負担額：Bs. 8193 受益者グループ負担額：Bs. 473</p>

受益者グループのメンバーについて

グループ事業の受益者氏名 （または家長の氏名）	年齢	本グループ事業に 参加している同じ家族の者	年齢
1. Marciana Choque	33歳		
2. Lucia Flores	25歳		
3. Juliana Llanqui	27歳		
4. María Llaveta	16歳	Beatriz Llaveta	14歳
5. Josefina Flores	15歳		
・			
・			
・			

(2ページ目)

グループ事業の基本事業について

各事業(または活動)の内容	目的	実施方法	実施予定時期
1. 洋裁研修	大人用・子供用の洋服づくりを学ぶこと	受益者を2つのグループに分け、毎週月曜日から土曜日、1日おきに交代で研修を受ける	2001年8月から9月まで
2. 研修所の整備(窓枠、窓ガラス、窓に鉄棒を付けるなど)	グループ事業のために購入する資機材の安全を保障すること 受益者が研修を受け、その他の活動を行うための場所を確保すること	受益者グループ及びJALDAプロジェクトが整備する。	2001年8月

グループ事業の必要な事前事業について

各事業(または活動)の内容	目的	実施方法	実施予定時期
1. グループ作り、グループ責任者の決定	研修の成果を保障すること	研修を要請する前に、希望者全員でグループを作る。	2002年6月
2. 研修所整備に必要な労力の提供と負担金の支払い	受益者を事業に巻き込むこと。	整備をどのように進めるかは受益者で決める	研修実施中

グループ事業の条件事業について

各事業(または活動)の内容	目的	実施方法	実施予定時期
1. 農家レベルの植林(受益者1人あたり50本の苗木を植える)	自然資源の改良と保全に関する活動を支援すること	植林は各受益者の敷地内でグループで実施する(現地には「アイニ」と呼ばれる相互扶助習慣がある)	2002年1月
2. 自然資源及び家畜管理に関する研修を受ける。	地域の自然資源保全に関する意志決定に積極的に参加すること	研修は定例集会の際に、グループで実施する。	必要な期間

グループ事業実施後の活動及び約束事について

各事業(または活動)の内容	目的	実施方法	実施予定時期
1. 洋裁の練習を絶えず続けること	学んだことを忘れないこと、研修後も洋裁を続けること	スケジュールを基に、小さいグループで練習する。	必要な期間
2. グループに渡すマシンやその他の資機材の維持管理を行うこと(故障した場合修理に出すこと)	練習を続けること、地域において将来洋裁を習いたい女性グループを支援すること(マシンを貸すことなどで)	女性グループの役員会を中心に	必要な期間
3. 新しいグループ員に洋裁を教えること	身につけた技術を他に移転すること、グループ員同士及び地域の農家同士の一体性を高めること	優秀な女性を中心に、グループ全体で支える	必要な期間
4. 地域レベル・集落レベル・集落外において、成果品を販売するための展示会を開くこと	グループの活動資金が発生し、グループ員の収入を高めること	グループ員全員で実施する。	時期をみて計画する
5. JALDAプロジェクト終了後も、研修を受けたグループを維持し、生活向上に貢献する新たな対策を求め続けること	グループ員の一体性を保ち、女性のためとなる新たな援助を取得すること	受益者全員	必要な期間
6. JALDAプロジェクトや女性グループが主宰する集会やイベントに参加し続けること	自然資源に関する知識を高めること。	受益者全員	プロジェクト実施期間中
7. 各種保護対策を用いて、家畜による食害などから保護し、苗木の生育を保障すること	苗木の生育を支えること	受益者グループの責任で、タピラニ地域全体が参加する	必要な期間

(3 ページ目)

責務及び罰則について

受益者グループの責務	責務を果たさなかった場合の罰則
1. 時間厳守	遅刻が数回続いた場合、遅刻 1 時間あたり Bs. 0.50 を罰金として払うこと
2. 負担金の支払い	最初の 1 ヶ月中に負担金を支払わなかった場合、研修を受けられなくなる。
3. 最後まで研修を受けること	きちんとした理由もなく、グループ員が途中で研修に来なくなった場合、今後の研修には一切参加することができず、またそれまで支払った負担金は返金されない。
4. 必要な事前事業（集会所の整備）及び条件事業（植林）を必ず実施すること	これらの事業を実施しなかったグループ員は、今後 JALDA プロジェクトが実施する活動には一切参加できなくなる。
5. グループ事業実施後の活動を必ず実施すること（学んだことを練習し続けること、植林、家畜による苗木の被害の防止対策に取り組むことなど）	学んだことを練習し続けなかったグループ員またはグループ活動（展示会は集会）を支援しないグループ員は、今後 JALDA プロジェクトが実施する活動には一切参加できなくなり、グループから除外されることもあり得る。 植林した独自の苗木・隣家の苗木に被害を及ぼした場合、新しい苗木を植えた上に、地域責任者及びグループが決めた罰則を受ける。
6. グループに渡された資機材（ミシン、機など）の維持管理を責任持って行うこと。	JALDA プロジェクトが不適切な維持管理を確認した場合、今後の支援をカットする。
7. 半月に 1 回、学習プロセスの進捗及び期間中に発生した問題点について評価する。	研修の資機材がなくなった場合、グループ員同士で誤解が生じた場合、グループ員の欠席が続いた場合、研修を完全に中止する。

グループ事業にかかる経費及び支援方法について

内容	コスト (推定)	支援方法	
		JALDA プロジェクト負担	受益者 グループ負担
指導者の雇用	US\$ 440 (Bs. 2935)	Bs. 2935	Bs. 0
固定資産(ミシンや機などの)	Bs. 2545	Bs. 2290	Bs. 255
消耗品	Bs. 1161	Bs. 1045	Bs. 116
集会所に必要な家具など (机 2 台、長椅子 3 台、窓枠 3 個)	Bs. 1025	Bs. 923	Bs. 102
研修所の整備	Bs. 1000	Bs. 1000	Bs. 0
植林用苗木 900 本	Bs. 900	Bs. ?	Bs. ?
コスト合計及びそれぞれの負担額	Bs. 9566	Bs. 8193	Bs. 473

全グループ員の承認 (署名)

受益者氏名	署名	日にち
1. Marciana Choque		
2. Lucia Flores		
・		
・		

集落農家組合会長(サイン) JALDA プロジェクト代表者(サイン)

地域担当技術員(サイン)

(4ページ目)

グループ事業に必要な資機材

固定費

(マシンや洋裁用重しなどコストが高いものこと)

内容	個数	単価(Bs)	合計(Bs)
手回しマシン	1	400	400
足踏みマシン	2	650	1300
圧搾機	8	15	120
洋裁用重し(50cmのもの)	3	60	180
洋裁用重し(30cmのもの)	4	35	140
洋裁用重し(15cmのもの)	5	25	125
(集落には電気がないため) 木炭アイロン	2	90	180
プラスチック定規(60cmのもの)	2	15	30
プラスチック定規(3cmのもの)	5	5	25
はさみ	3	15	45
合計			2545

消耗品

(グループ事業実施期間中に消耗され、長く使えないものこと)

内容	数	単位	単価(Bs)	合計(Bs)
メジャー	12	個	2	24
針	2	セット	5	10
色系	30	個	1	30
チョーク	1	箱	10	10
洋裁用紙	50	枚	0.5	25
麻布	20	m.	3	60
スカート用の生地	54	m.	13	702
ブラウス用の生地	20	m.	15	300
合計				1161

集会所整備に必要な資材

内容	個数	単価(Bs)	合計(Bs)
140x140cmの窓のための鉄棒	2	150	300
110x85cmの窓のための鉄棒	1	120	120
窓ガラス			200
ドア	1	300	300
窓ガラス用接着剤	2Kg	15	30
その他のアクセサリ			50
合計			1000

研修所用の家具にかかる経費(家具は木工研修を受けた農家グループに作ってもらう)

内容	個数	単価(Bs)	合計(Bs)
机2つ作るための木材	160フィート*	2.50	400
長椅子3つを作るための木材	100フィート*	2.50	250
窓枠3つを作るための木材	70フィート*	2.50	175
(机・長椅子・窓枠を作るための労賃)			200
合計			1025

*フィート:ヤード・ポンド法の長さの単位。1フィートは30.48cm(2.54cmx12倍)に相当する

付属資料 4 グループ設立の記録様式・定例集会の記録様式の見本

グループ設立の記録

年 月 日 時 県 村、 集落にて、女性グループを設立する目的で、下に署名する全員が集まった。集会では次の内容が話された。

議事日程

プロジェクト側技術員の報告

女性グループの役員の決定

その他

最初に、

技術員は、女性が組織化することの重要性について説明した。また、女性はどのように、そして何のために組織化しなければならないかについても説明した。これに対して数名の女性が発言し、女性が組織化すれば、互いに協力し合い、女性のためになる活動を要請することができるため重要なことであるとした。

次に、

役員の選定は投票による。投票が多かった順に会長・副会長・書記を決めた。残りの役員は必要な資質などを考慮し投票せずに決めた。決まった役員は次に示すとおりである。

会長	夫人
副会長	夫人
書記	夫人
会計係	夫人
スポーツ係	夫人
秘書役	夫人

最後に、

役員は次回の集会にて、任命される。

集会を終わる前に、定例集会の日にち、集会・グループ活動に欠席した場合の罰則が決められた。

集会は、同日 時に終了した。

下に出席者全員が署名する。

出席者氏名	署名
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

定例集会・特別集会の記録

年 月 日 時、 県、 村、 集落、 場所にて、女性グループの定例集会が開かれ、次の事項が検討された。

議事日程

グループ員の出席確認

議事の読み上げ及び承認

前集会の議事録読み上げおよび確認

役員が実行した業務に関する報告

プロジェクト側技術員の報告

フットサル大会の案内

雑件

議事内容

書記は出席をとり、 人が出席し、 人が欠席し、 人が欠席許可であった。

議事を読み上げ、内容には誰も反対せず、承認した。

前回の集会の議事録を読み上げ、内容には反対者はなく承認された。

役員は次のことを報告した。

会長：

副会長：

会計係：

スポーツ係：

秘書役：

プロジェクトの技術員は次のことを報告した。・・・

スポーツ係りおよび会長はフットサル大会の案内について次のことを報告した。・・・

その他では、次の2点について話された。

新しいグループ員の入会：全員が賛成し、次に示す新しいグループ員の入会が認められた。新グループ員はグループの内部規定を厳しく守ることを約束した。

次の活動の計画：次の活動は、グループの野菜畑の柵作り及びドアを付ける作業である。決定した順番を守り、作業を進める。

同日の 時に、以上の内容で集会が終了した。（下に役員会のメンバー全員の署名を入れる）

会長

副会長

会計係

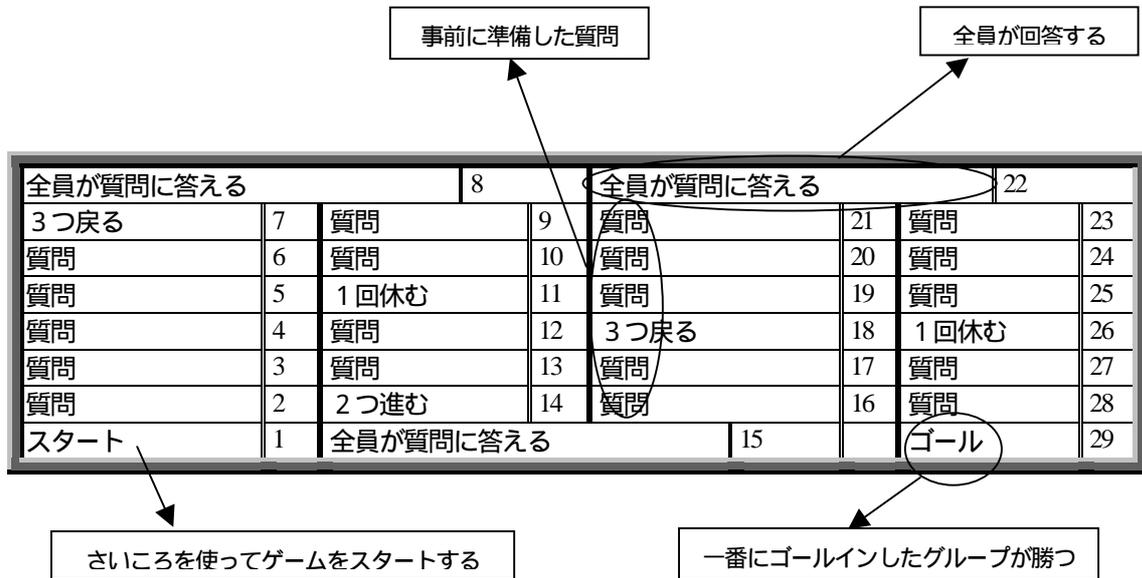
スポーツ係

秘書役

付属資料 5

グループ評価のためのゲーム「私たちは何を知っているか」

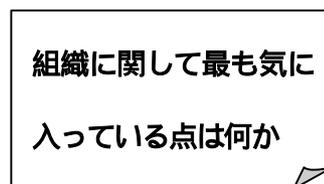
「私たちは何を知っているか」のテーブルゲームには次に示すようなテーブルが必要である。



ゲームには、上のテーブル以外に、評価する項目に関する質問を事前に準備し、これらをカードに書いておく必要がある。技術員はテーブルと質問カードを事前に準備し、本WSに持参する。

参加者がゲームに興味を持つため、テーブルのデザインにはおもしろい絵や目立つ色を用いるとよい。

1枚の質問カードには、ひとつの質問だけを書く。質問カードは40枚程度準備する。次に示すように、カードの表には質問番号、裏には質問を書く。



ゲームのためには、参加者を2つのチームに分け、テーブルを机または地面に広げ、質問カードを両チームが届くところにおいておく。

交代で各チームのメンバーがさいころを投げ、出た数字の分をテーブル上で進む。着いたところに「質問」と表示されていれば、質問カードをひとつ取り、裏にある質問に答える。この人以外に、同じグループのメンバー2人が同じ質問を補足し、答えなければならない。

「全員が質問に答える」と表示されているところにたどり着いた場合、チームの全員が質問カードの質問に答える。つまり、10人チームであれば、10人が質問に答えなければならない。

質問が繰り返されないように、答えたカードは、まだ答えていないカードと別にしておく。

一番にゴールインしたチームが優勝する。



お勧め
参加者が多い場合、2チームではなく、4チームを作り、最初の2チームがゲームを終われば、残りの2チームがゲームをするとよい。つまりゲームを2回行う。

次に、質問カードに書く質問の例を示す。

集落は女性の組織に協力するか。Yesの場合、どのように協力するか。
組織に関して最も気に入っている点は何か。
どんなことが組織を弱くすると思うか。
女性グループは集落に何か貢献していると思うか。Yesの場合、どのように貢献していると思うか。
グループ内では現在何名が活動しているか。
女性グループでは現在どんな活動を行っているか。
女性グループは設立当時何名だったか。
女性グループに入って以来生活が変わったと思うか。Yesの場合、どのように変わったと思うか。Noの場合、それはなぜだと思うか。
組織に関して最も気に入っていない点は何か。
グループがなくならないため何をしたらよいと思うか。
女性グループは、グループ員の家庭に何か貢献していると思うか。Yesの場合、それは何か。
最初の頃、グループの集会や研修に出席するためどんな問題が生じたか。今はどんな問題が生じているか。
他の集落では、この集落の女性が組織化して活動していることを知っているか。これについて自分たちはどう思うか。
女性グループのことに、夫たちはどう思っているか。
JALDAプロジェクトが終了したら、組織はどうなると思うか。何が起こると思うか。
組織をよくするためには何が必要であると思うか。
計画した活動は全て実現できたか。
グループを通じて、前から希望していたこと、学びたかったことが実現できたか。
職能研修に参加するためどんな問題があったか。
グループ員がグループにもっと満足するためには何が必要だと思うか。
JALDAプロジェクトのどのようなところが一番気に入っているか。
JALDAプロジェクトのどのようなところが一番気に入らないか。
今後どのような活動を計画しようとしているか。
自然資源とは何か。最も重要なのはどれか。
土壌侵食を防止するためにはどんな対策があるか。
敷地内にはどんな対策を取り組んだか。
一番気に入っている保全対策はどれか。
どんな自然資源保全対策を取り組んでいるか。
グループとして、集落の自然資源保全活動に協力しているか。(例えば、集落共有地における植林、植林後の管理など)
将来の集落はどのようにしたいか。

参加者がゲームの質問に答えていく都度、技術員はその答えや意見を帳面または模造紙などに記録していく。これはその後、グループ員の考え・気持ち・希望などに関してまとめ、結論を出すために役立つ。

プロジェクトにおける事例

トモロコ集落では、参加者が多かったため(31名)、4つのチームを作ったが、質問カードが少なかった。全部の質問に答えたが、なかなかゴールにたどり着けなかったため、同じ質問を繰り返した結果、同じ人が同じ質問に2回答えるなど問題が生じ、参加者は少し質問に飽きた様子であった。

一方、カイナカス集落では、同じように4チームを作ったが、より多くの質問カードを準備した結果、参加者は質問に飽きることなく、質問に答えるためチーム同士で議論するなど、より楽しいゲームができた。



《農家の声》

「職能研修に参加するためどんな問題があったか」に関して

「私は職能研修に参加する時間の余裕がなかったため参加しなかった。」

「家畜の世話は女性の役目である。今は植林した苗木に被害を及ぼさないように家畜の管理を強化しなければならないことでより忙しくなった。学校の授業があるときは、子供たちは学校に行ってしまう、手伝ってくれる者が一人もいない。」

「私は、負担金を払うためのお金がなかったため職能研修に参加することができなかった。」

「グループ員がグループにもっと満足するためには何が必要だと思うか。」に関して

「互いに理解し合うことがまだ足りないと思う。人はときどき相手を傷つけるようなことを言い、やる気をなくさせる。これを知った夫はグループの集会に行かせてくれない。」

「指導がまだ足りないと思う。家庭内では女性に対する理解が足りないと思う。家事を手伝い、私たちを励ましてほしい。」

「私たちが最も必要なのは、グループが続くための意欲と努力である。」

「女性グループに入って以来生活が変わったと思うか。Yesの場合、どのように変わったと思うか。Noの場合、それはなぜだと思うか。」に関して

「例えば洋裁のように、今まで知らなかったことを勉強したことで私たちの生活は大きく変わった。」

「今は、家事はいつするか、研修に行かなければならないのはいつか、グループの集会に出なければならぬのはいつかなど、自分の時間をうまく計画することができるようになった。前は、家畜の世話・毛糸紡ぎ・夫の手伝いだけで一日中忙しかった。」

「職能研修のおかげで今は、私も少しの収入があり、家族のための洋服を作ることができる。このため、グループの集会に参加するように夫が協力してくれるようになった。」

付属資料6 女性グループの内部規約（トモロコ集落の例）

グループの目的と最終目標

女性が発展するための機会を得るため、グループを維持させ活動すること。

グループ員になるための条件

集落に在住していること、15歳以上で、グループ活動に興味を持つこと。

グループの組織構造

グループの組織は次に示す8つの役員を中心に構成する。

会長

副会長

書記

会計係

スポーツ係

監視役

秘書役 2名

各役員の見割と責任

各役員の見割と責任は次の表に示す通りである。

	見割・責任
会長	女性組織の正式な代表者である 集会を招集し、これを主催する 他の役員が見割を果たしているかをコントロールする グループ員のニーズや希望を明確にし、これらを満たすため各種機関に支援を要請する グループ員が積極的に参加するように促す 集会で決議したことを遂行させる グループ内で行われる活動の内容とその進捗状況などについてグループ員及び集落全体に報告する
副会長	会長を補佐する 会長が不在の場合、その見割・責任を引き受ける 役員会のメンバー及びグループ員と積極的に調整する
書記	グループ宛の文章を受け取り、グループからの文章を発送する グループに関する全ての書類を管理する 集会の出席を管理する 定例集会及び特別集会の記録を取る 他の役員と一っしょに集会のテーマを準備する
会計係	グループの資金管理の責任者である グループの共有資金の動きを記録しコントロールする グループに関する支払い領収書を全て管理し、保管する 会計を管理し、勘定書を提出する 他の役員を支援し、協力する

役割・責任	
スポーツ係	グループ内のスポーツイベント（気分転換のための行為やスポーツ大会など）を開催する責任者である スポーツイベントに女性全員が参加するように促す 他の集落のスポーツイベントに参加するため女性を組織する
役割・責任	
秘書役	女性グループの集会・活動の開催についてグループ員全員に知らせる責任者 他の役員を支援し、協力する グループ員が集会に出ているかを管理する

役員の任期

役員の任期は1年間

とする。新しい役員は毎年1月に決めることとする。

集会開催日

多数決で、グループの定例会は2週間に1回、土曜日に開催することに決めた。特別集会は必要に応じて開催することに決めた。

集会開催時間

定例会は正午に開催し、議事の全てを検討するまで続くこととする。

遅刻の許容

20分までの遅れは許容することとする。

遅刻

20分を超えた場合は遅刻扱いとする。遅刻してきたグループ員は罰金としてBs.0.30を支払うこととする。

欠席とその罰則

定例会に欠席した場合、罰金としてBs.1.5を支払うこととする。

集会の途中でいなくなった場合、欠席と同じ扱いとなり、罰金Bs.1.5を支払うこととする。

罰金の支払い

罰金の支払い期限は次の集会を開催するときまでである。これまでに支払わなかった場合、罰金額に1割追加する。

欠席許可

次に示す場合のみ、グループ員の欠席を許可する。

グループ員、またはその家族員が病気した場合

グループ員の親類が亡くなった場合

集落の共同活動と定例会の日程が重複した場合

家畜がいなくなり、探しに出なければならない場合

集落から遠く離れた場所で農作業（種まきや収穫）を行わなければならない場合

仕事の都合による長旅の場合（ただし、グループ員がそれまでの負担金を全て払っており、グループ活動を全て済ませた場合に限る）

新しいグループ員の入会

古いグループ員が提案する会費（例、これまで事業のために支払った負担金+提供した労力に相当する金額）を支払えば、入会を認めることとする。

グループ員の退会

理由もなく、グループの定例集会またはグループ活動に3回連続して欠席したグループ員はグループから退会することとする。

また、グループ内において絶えず問題（けんかや仲の悪さなど）を起こすグループ員は、同様にグループから退会することとする。

グループ員の脱会

グループ員が、グループを脱会し、違う人を代わりに入会させる場合は、次の条件を満たした場合、可能である。

55歳以上のグループ員の場合

グループに3年間加入していれば、代わりに娘・息子の嫁・妹・姉・姪を入会させることができる。

55歳以下のグループ員の場合

グループに10年間加入していれば、代わりに娘・息子の嫁・妹・姉・姪を入会させることができる。

グループの解散

グループ員の希望でグループを解散する場合、それまでのグループの財産（資機材・施設）の処理の仕方（売るか自分たちで分けるか）については、グループ員同士で検討することとする。

グループ員の希望ではなく、グループ内に問題が生じたことによりグループを解散する場合、それまでのグループの財産は全て集落組織に渡す。

合意

グループ員は以上の内容に合意し署名する。

現在の集落リーダーたちも本規定を承認し署名する。

2001年4月6日 トモロコ集落

バレンティナ・グティエレス
会長

ファナ・チョケ
副会長

書記

ファウスタ・ムニョス

会計係

マルセリナ・リマチ

スポーツ係

クリスティナ・ラモス

監視役

フスタ・ママニ

秘書役1

エウロヒア・ムニョス

秘書役2

トマサ・チョケ

グループ員のリストと各々の署名

- ・
- ・
- ・